

令和4（2022）年度

# 栃木県政世論調査

調査報告書（概要版）

令和4（2022）年10月

栃木県



# 目次

---

I	調査の概要	1
II	調査の結果	2
1	暮らしの変化について	
	(1) 暮らしの変化	2
	(2) 暮らしが悪くなった理由	3
	(3) 暮らしの満足度	4
	(4) 今後の暮らしの状況	5
	(5) 今後の暮らしで力を入れる点	6
2	県政への要望について	
	(1) 県政への要望	7
3	日常生活について	
	(1) 文化・芸術活動について	10
	(2) スポーツ活動について	11
	(3) 住んでいる地域について	12
	(4) 社会貢献活動について	13
	(5) 県の事業や催し、案内などの情報入手手段	15
	(6) 知りたい県政情報	16
4	栃木県への愛着と誇りについて	
	(1) 栃木県に対する愛着	17
	(2) 栃木県に愛着を感じる理由	18
	(3) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの	19
5	SDGsについて	
	(1) SDGsの認知度	20
	(2) SDGsのどのようなことを知っているか	21
6	地域防災について	
	(1) 災害に対する備え	22
	(2) 災害の際に必要な情報について知っていること	23
	(3) 防災訓練の参加状況	24
7	男女平等意識について	
	(1) 社会全体の中での男女の地位の平等感	25
	(2) 固定的な性別役割分担意識	26
	(3) 働く場での男女の地位の平等感	27
8	とちぎの元気な森づくり県民税について	
	(1) 重要と考える森林の働き	28
	(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの	29

---

<b>9 食品ロスの削減について</b>	
（1）食品ロスの問題の認知度	30
（2）食品ロスを発生させないための取組で知っていること	31
（3）食品ロスを発生させないために現在取り組んでいること	32
<b>10 地域のつながりについて</b>	
（1）現在のご近所との関係	33
（2）日常生活で困ったときに相談できる場所	34
<b>11 ヤングケアラーについて</b>	
（1）ヤングケアラーという言葉の認知度	35
（2）ヤングケアラーの実態（介護や世話）	36
（3）ヤングケアラーの実態（身近にいるか）	37
<b>12 在宅医療について</b>	
（1）自宅療養への考え	38
（2）人生会議（ACP）の認知度	39
（3）人生会議（ACP）への考え	40
<b>13 とちぎのがん対策について</b>	
（1）がんについての認知度	41
（2）がん検診を受診しない理由	42
（3）がん治療と仕事の両立	43
<b>14 障害者差別の解消について</b>	
（1）ヘルプマークの認知度	44
（2）県の取組に関する認知度	45
（3）障害者差別解消の理解	46
<b>15 食の安全・安心について</b>	
（1）食品の安全性に対する不安	47
（2）食品の安全性について不安に思うもの	48
（3）食の安全に関する情報を得られているか	49
<b>16 食に関する意識と実践について</b>	
（1）生鮮食品購入の際、産地を確認しているか	50
（2）農業体験をした経験	51
<b>17 住宅の耐震化及び塀の安全対策等について</b>	
（1）住宅の耐震改修の必要性	52
（2）住宅の安全確保	53
（3）ブロック塀の安全確保	54

18 犯罪と治安対策について

(1) 県内の治安状況の変化 .....	55
(2) 不安を感じる犯罪 .....	56
(3) 警察官に力を入れてほしい活動 .....	57



# I 調査の概要

## 1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

## 2 調査項目

- |                        |                           |
|------------------------|---------------------------|
| (1) 暮らしの変化について*        | (10) 地域のつながりについて          |
| (2) 県政への要望について*        | (11) ヤングケアラーについて※         |
| (3) 日常生活について*          | (12) 在宅医療について             |
| (4) 栃木県への愛着と誇りについて     | (13) とちぎのがん対策について         |
| (5) SDGsについて           | (14) 障害者差別の解消について         |
| (6) 地域防災について           | (15) 食の安全・安心について          |
| (7) 男女平等意識について         | (16) 食に関する意識と実践について       |
| (8) とちぎの元気な森づくり県民税について | (17) 住宅の耐震化及び塀の安全対策等について※ |
| (9) 食品ロスの削減について        | (18) 犯罪と治安対策について          |

(※印は時系列調査、※印は新規調査)

## 3 調査設計

- |          |                       |
|----------|-----------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域                 |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女個人           |
| (3) 標本数  | 2,000                 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法            |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収）        |
| (6) 調査時期 | 令和4（2022）年6月10日～6月30日 |

## 4 調査機関

株式会社タイム・エージェント

## 5 回収結果

回収数（率） 1,236（61.8%）

## 6 報告書の見方

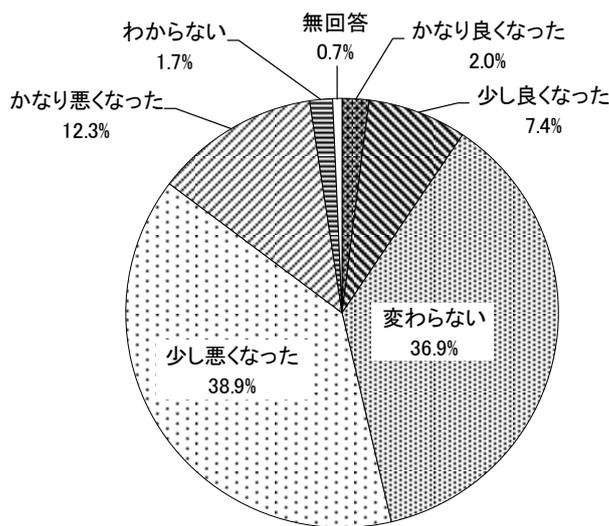
- (1) 各調査項目について、全体、性別、性／年齢別及び過去の調査結果との比較（一部項目のみ）を掲載した。
- (2) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (3) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (4) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (5) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (6) 性／年齢別の分析の説明では、男性18～19歳の回答者は6人、女性18～19歳の回答者は16人と少ないため、他の性／年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、一律にふれていない。また、性別を「回答しない」の回答者が19人と少ないため、図表化していない。

## II 調査の結果

### 1 暮らしの変化について

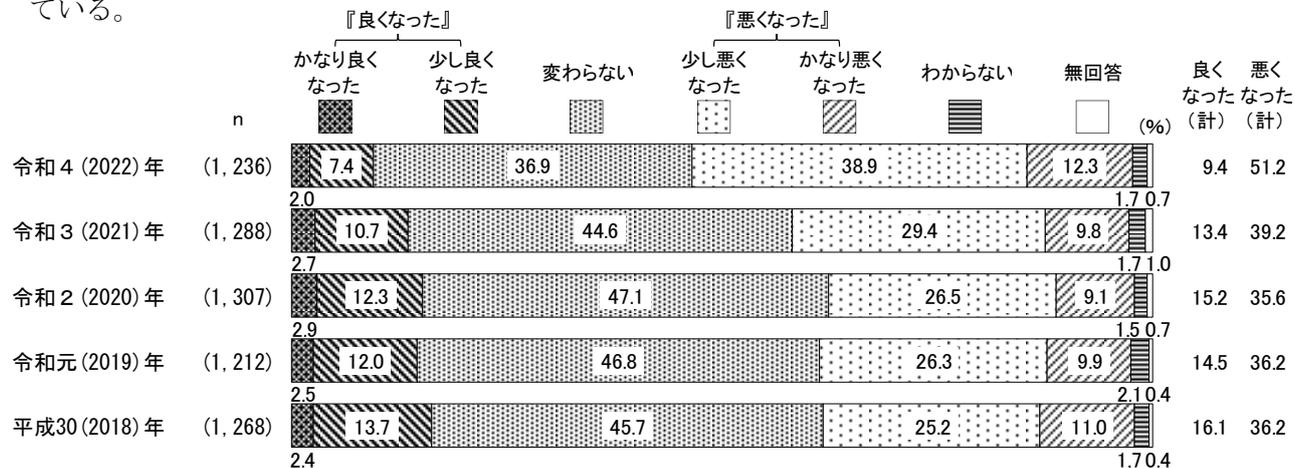
#### (1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



(n=1,236)

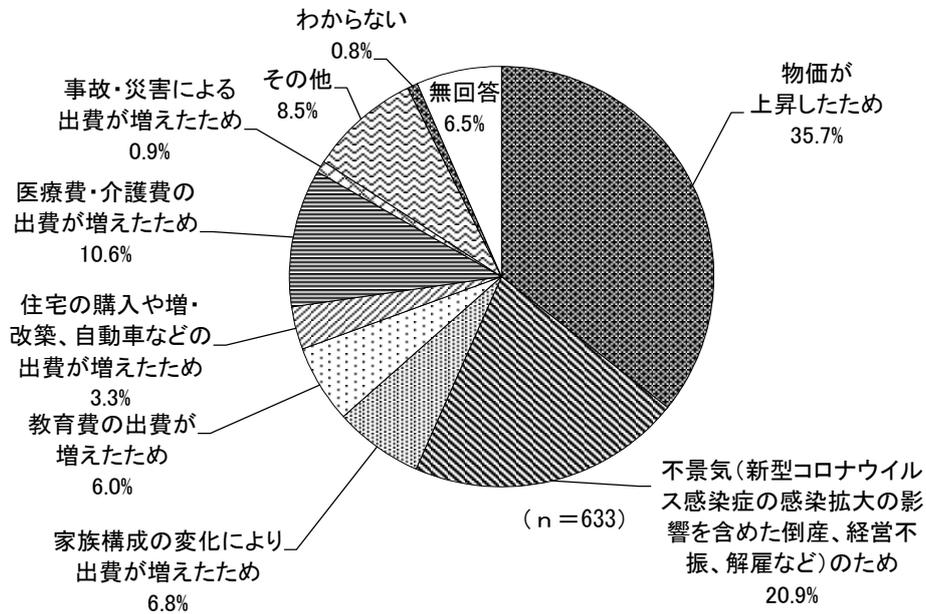
- ・全体で見ると、「かなり良くなった」(2.0%)と「少し良くなった」(7.4%)の2つを合わせた『良くなった』(9.4%)が1割弱となっている。一方、「少し悪くなった」(38.9%)と「かなり悪くなった」(12.3%)の2つを合わせた『悪くなった』(51.2%)が5割強となっている。また、「変わらない」(36.9%)が3割台半ばを超えている。
- ・性別で見ると、『悪くなった』では〈男性〉(53.5%)が〈女性〉(48.5%)より5.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈女性30歳代〉が21.3%、〈女性20歳代〉が21.1%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性60～64歳〉が62.5%、〈男性50歳代〉が62.4%と高くなっている。



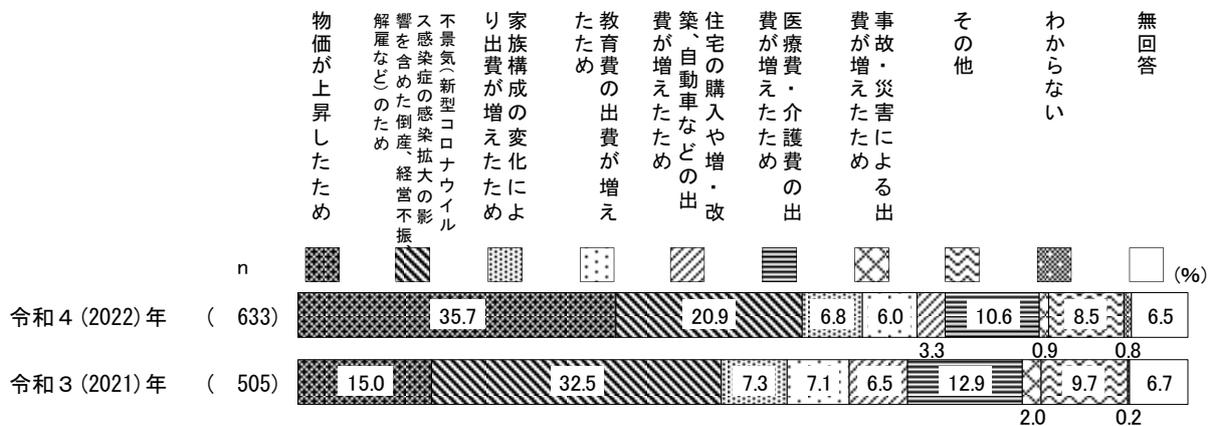
- ・過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が前回(令和3(2021)年)より12.0ポイント増加している。

## (2) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)  
 問2 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。  
 [n=633]



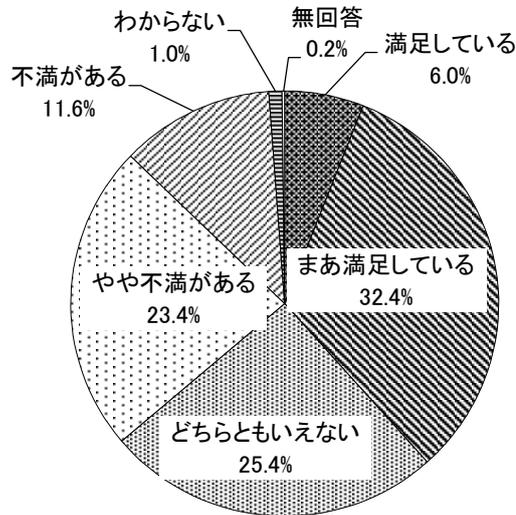
- 全体で見ると、「物価が上昇したため」(35.7%)が3割台半ばで最も高く、次いで「不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため」(以下『不景気のため』という。)(20.9%)、「医療費・介護費の出費が増えたため」(10.6%)の順となっている。
- 性別で見ると、『不景気のため』では〈男性〉(25.5%)が〈女性〉(16.8%)より8.7ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「教育費の出費が増えたため」では〈女性40歳代〉が29.3%と高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉が51.6%と高くなっている。また、「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性70歳以上〉が20.0%と高くなっている。



- 前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が20.7ポイント増加している。一方、『不景気のため』が11.6ポイント減少している。

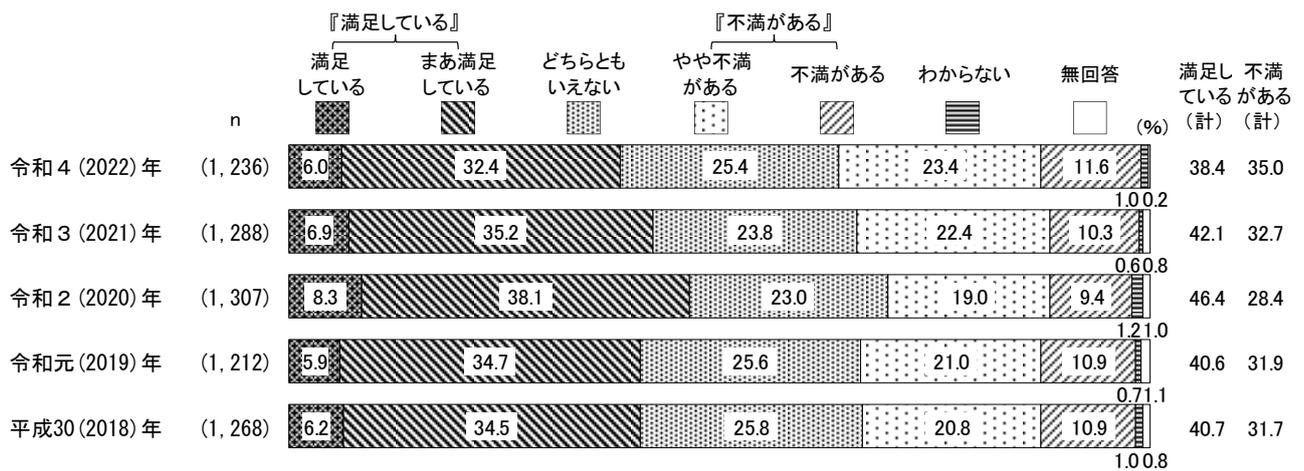
### (3) 暮らしの満足度

問3 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



(n=1,236)

- ・全体で見ると、「満足している」(6.0%)と「まあ満足している」(32.4%)の2つを合わせた『満足している』(38.4%)が4割近くとなっている。一方、「やや不満がある」(23.4%)と「不満がある」(11.6%)の2つを合わせた『不満がある』(35.0%)は3割台半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(25.4%)が2割台半ばとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『満足している』では〈女性20歳代〉が63.2%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈女性60~64歳〉が48.2%と高くなっている。

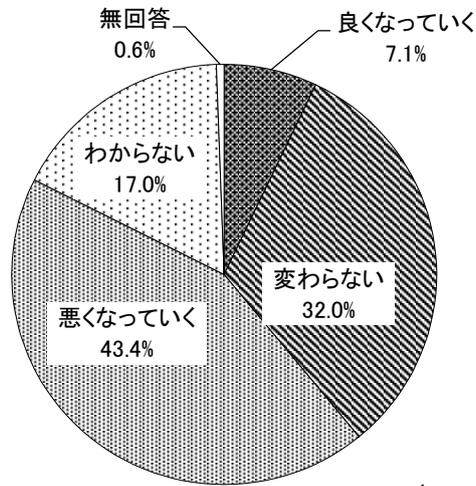


- ・過去の調査結果と比較すると、『満足している』が前々回(令和2(2020)年)より減少傾向が続き、前々回(令和2(2020)年)より8.0ポイント減少している。

#### (4) 今後の暮らしの状況

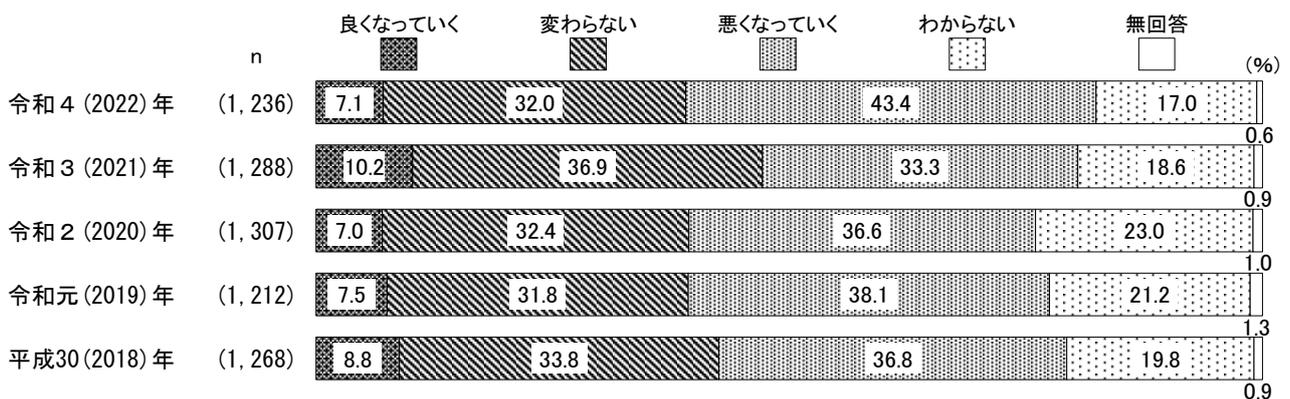
問4 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]



(n=1,236)

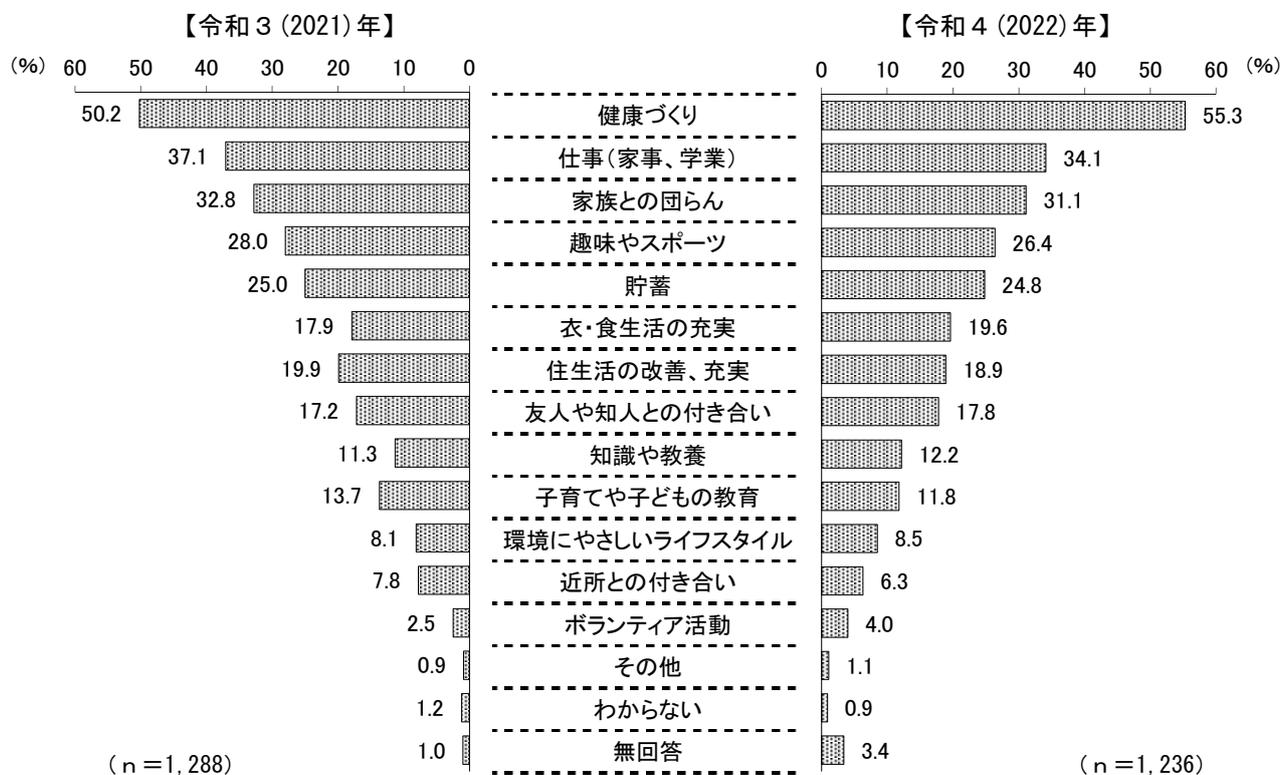
- ・全体で見ると、「悪くなっていく」(43.4%)が4割台半ば近く、「変わらない」(32.0%)が3割強となっている。
- ・性別で見ると、「悪くなっていく」では、〈男性〉(45.9%)が〈女性〉(41.3%)より4.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が28.9%、〈男性20歳代〉が27.8%と高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性65~69歳〉が61.2%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」が前回(令和3(2021)年)より10.1ポイント増加している。

## (5) 今後の暮らしで力を入れる点

問5 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。  
次の中から3つまで選んでください。 [n = 1, 236]

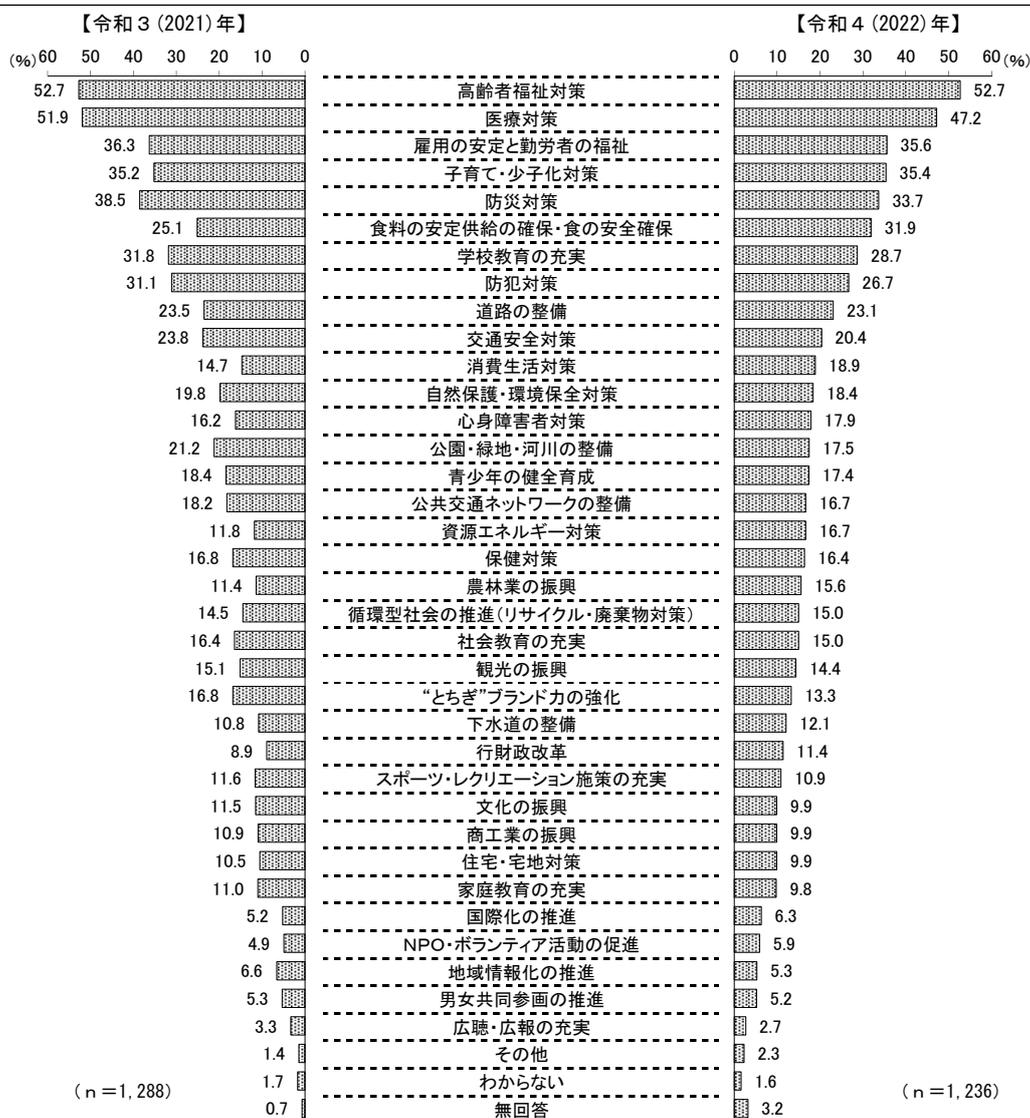


- ・全体で見ると、「健康づくり」(55.3%)が5割台半ばで最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(34.1%)、「家族との団らん」(31.1%)、「趣味やスポーツ」(26.4%)、「貯蓄」(24.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(37.2%)が〈女性〉(18.7%)より18.5ポイント高くなっている。一方、「健康づくり」では〈女性〉(59.9%)が〈男性〉(49.7%)より10.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が75.0%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性40歳代〉が49.5%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が37.3%、〈女性40歳代〉が35.4%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「健康づくり」が5.1ポイント増加している。

## 2 県政への要望について

### (1) 県政への要望

問6 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な“とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,236]



- ・全体で見ると、「高齢者福祉対策」(52.7%)が5割強で最も高く、次いで「医療対策」(47.2%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(35.6%)、「子育て・少子化対策」(35.4%)、「防災対策」(33.7%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(31.9%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「医療対策」では〈女性〉(52.1%)が〈男性〉(41.9%)より10.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢者福祉対策」では〈女性70歳以上〉が71.0%と高くなっている。「医療対策」では〈女性50歳代〉が68.1%と高くなっている。また、「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈女性50歳代〉が54.9%と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈女性20歳代〉が63.2%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈女性40歳代〉が46.5%、〈女性20歳代〉が44.7%、〈女性30歳代〉が44.0%と高くなっている。

[過去の調査結果一年齢別]

(上位5項目)

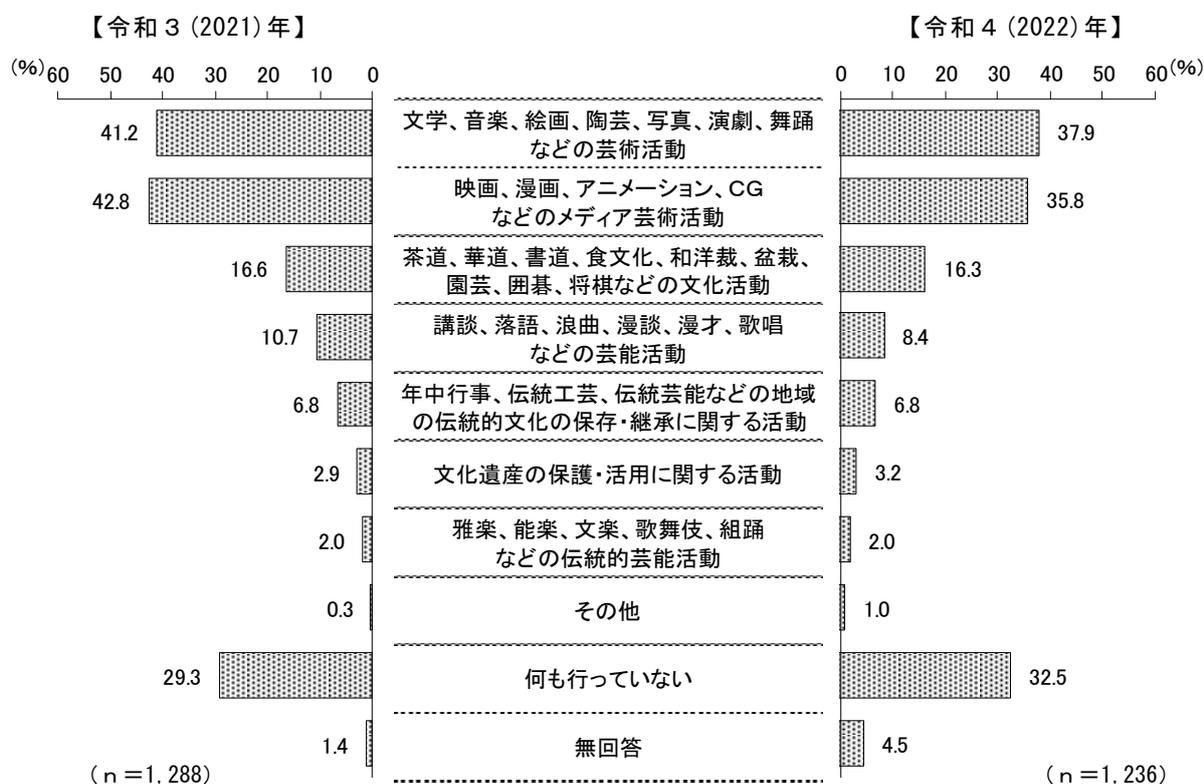
年齢	年	順位				
		1位	2位	3位	4位	5位
全体	令和4(2022)年 (n=1,236)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 47.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 35.6%	子育て・少子化対策 35.4%	防災対策 33.7%
	令和3(2021)年 (n=1,288)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 51.9%	防災対策 38.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 35.2%
	令和2(2020)年 (n=1,307)	高齢者福祉対策/医療対策 53.3%		防災対策 40.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 31.9%
	令和元(2019)年 (n=1,212)	高齢者福祉対策 59.1%	医療対策 50.7%	子育て・少子化対策 37.5%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.5%	防犯対策 34.7%
	平成30(2018)年 (n=1,268)	高齢者福祉対策 58.4%	医療対策 49.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.7%	子育て・少子化対策 34.5%	防犯対策 30.9%
20~39歳	令和4(2022)年 (n=213)	子育て・少子化対策 52.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 43.7%	医療対策 41.8%	学校教育の充実 40.4%	防災対策 37.6%
	令和3(2021)年 (n=288)	子育て・少子化対策 58.7%	学校教育の充実 44.8%	医療対策 42.4%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.0%	防災対策 37.5%
	令和2(2020)年 (n=218)	子育て・少子化対策 52.3%	医療対策 46.8%	学校教育の充実 46.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 41.3%	防災対策 37.2%
	令和元(2019)年 (n=234)	子育て・少子化対策 56.4%	医療対策 49.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 44.9%	学校教育の充実 42.3%	交通安全対策 41.5%
	平成30(2018)年 (n=229)	子育て・少子化対策 53.3%	医療対策 48.9%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.7%	学校教育の充実 37.6%	高齢者福祉対策 37.1%
40~59歳	令和4(2022)年 (n=379)	医療対策 53.6%	高齢者福祉対策 50.1%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.2%	子育て・少子化対策 39.6%	学校教育の充実/ 防災対策 34.8%
	令和3(2021)年 (n=398)	医療対策 54.5%	高齢者福祉対策 48.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.2%	防災対策 38.7%	子育て・少子化対策 33.2%
	令和2(2020)年 (n=449)	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 49.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 46.3%	防災対策 43.4%	学校教育の充実 34.7%
	令和元(2019)年 (n=392)	高齢者福祉対策 54.8%	医療対策 51.8%	雇用の安定と勤労者の福祉 42.1%	子育て・少子化対策 39.0%	防犯対策 35.5%
	平成30(2018)年 (n=411)	高齢者福祉対策 57.2%	医療対策 51.3%	雇用の安定と勤労者の福祉 48.4%	子育て・少子化対策 34.3%	学校教育の充実 33.3%
60~69歳	令和4(2022)年 (n=228)	高齢者福祉対策 61.4%	医療対策 46.9%	防災対策 32.0%	雇用の安定と勤労者の福祉 31.6%	子育て・少子化対策 30.7%
	令和3(2021)年 (n=247)	高齢者福祉対策 67.6%	医療対策 59.5%	防災対策 41.7%	雇用の安定と勤労者の福祉 36.0%	防犯対策 30.8%
	令和2(2020)年 (n=271)	高齢者福祉対策 62.7%	医療対策 55.4%	防災対策 43.2%	雇用の安定と勤労者の福祉 30.3%	防犯対策 26.9%
	令和元(2019)年 (n=258)	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 52.7%	防災対策 33.7%	子育て・少子化対策/防犯対策 32.9%	
	平成30(2018)年 (n=267)	高齢者福祉対策 64.0%	医療対策 50.6%	雇用の安定と勤労者の福祉 33.3%	子育て・少子化対策 31.8%	防犯対策 29.2%
70歳以上	令和4(2022)年 (n=379)	高齢者福祉対策 67.5%	医療対策 44.1%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 37.2%	防災対策 33.0%	防犯対策 26.9%
	令和3(2021)年 (n=312)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 51.0%	防災対策 37.8%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 30.8%	防犯対策 28.2%
	令和2(2020)年 (n=315)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 54.3%	防災対策 34.6%	防犯対策 28.6%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 26.0%
	令和元(2019)年 (n=299)	高齢者福祉対策 75.6%	医療対策 49.2%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 33.4%	交通安全対策 32.4%	防犯対策 30.1%
	平成30(2018)年 (n=320)	高齢者福祉対策 71.9%	医療対策 49.1%	防犯対策 30.0%	食料の安定供給の確保・食の安全確保 27.2%	学校教育の充実/青少年の健全育成 25.3%

- ・ 上位5項目について、全体及び4区分した年齢層別に過去の調査結果と比較すると、全体では、平成30(2018)年以降「高齢者福祉対策」が同率も含め1位となっている。「医療対策」が平成30(2018)年以降、令和2(2020)年の同率1位を除いて2位となっている。順位に変動はあるが、令和2(2020)年から上位5項目に変動はみられない。
- ・ 20～39歳では、「子育て・少子化対策」が平成30(2018)年以降1位となっている。令和3(2021)年で4位であった「雇用の安定と勤労者の福祉」が今回調査では2位となっている。一方、令和3(2021)年で2位であった「学校教育の充実」が今回調査では4位となっている。
- ・ 40～59歳では、「医療対策」が令和2(2020)年以降1位、「高齢者福祉対策」が2位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が3位となっている。令和3(2021)年で5位であった「子育て・少子化対策」が今回調査では4位となっている。
- ・ 60～69歳では、平成30(2018)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。「防災対策」が令和元(2019)年以降3位となっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」が令和2(2020)年以降4位となっている。
- ・ 70歳以上では、平成30(2018)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。令和3(2021)年で4位であった「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が今回調査では3位となっている。一方、令和3(2021)年で3位であった「防災対策」が今回調査では4位となっている。令和2年(2020)年で4位であった「防犯対策」が令和3(2021)年以降5位となっている。

### 3 日常生活について

#### (1) 文化・芸術活動について

問7 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。  
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,236]

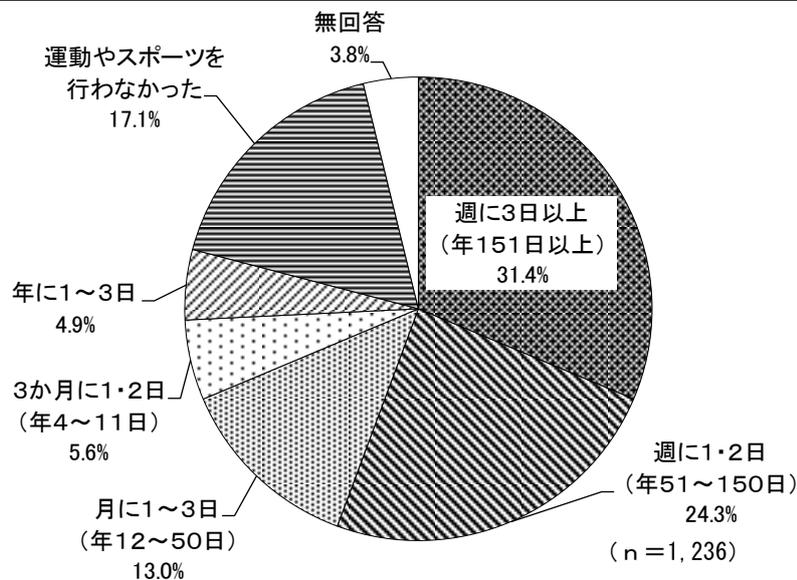


- ・全体で見ると、「文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（37.9%）が3割台半ばを超えて最も高く、次いで「映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動（以下『メディア芸術活動』という。）」（35.8%）の順となっている。一方、「何も行っていない」（32.5%）が3割強となっている。
- ・性別で見ると、「茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動（以下『文化活動』という。）」では〈女性〉（20.6%）が〈男性〉（11.2%）より9.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『芸術活動』では〈女性20歳代〉が63.2%と高くなっている。『メディア芸術活動』では〈女性20歳代〉が71.1%、〈男性20歳代〉が66.7%と高くなっている。『文化活動』では〈女性60～64歳〉が33.9%と高くなっている。一方、「何も行っていない」では〈男性65～69歳〉が44.9%と高くなっている。
- ・前回（令和3（2021）年）の調査結果と比較すると、『メディア芸術活動』が7.0ポイント減少している。

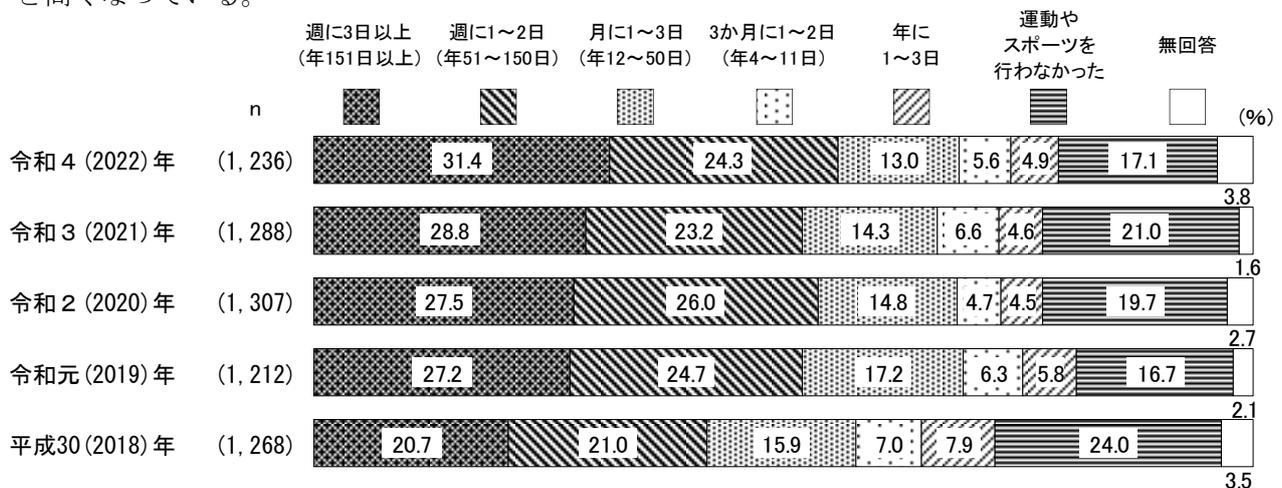
## (2) スポーツ活動について

問8 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ(※)を行いましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]

※ 運動やスポーツには、ウォーキング(散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなど)、階段昇降(2アップ3ダウンなど)、ジョギング、水泳、体操(ラジオ体操、エアロビクスなど)、室内運動器具を使ってする運動、レクリエーションスポーツ(フライングディスク、スポーツチャンバラなど)、ゲートボール、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングのほか、子どもとの体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなどを含まれます。



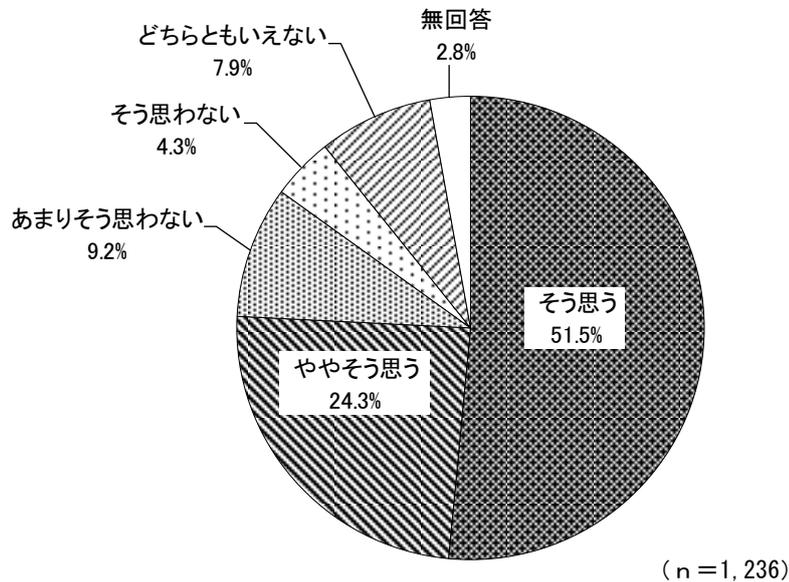
- ・全体で見ると、「週に3日以上(年151日以上)」(31.4%)が3割強で最も高く、次いで「週に1~2日(年51~150日)」(24.3%)、「月に1~3日(年12~50日)」(13.0%)の順となっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」(17.1%)が1割台半ばを超えている。
- ・性別で見ると、「週に1~2日(年51~150日)」では〈女性〉(33.0%)が〈男性〉(29.8%)より3.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「週3日以上(年151日以上)」では〈女性70歳以上〉が46.4%、〈男性70歳以上〉が43.3%と高くなっている。「運動やスポーツを行わなかった」では〈男性50歳代〉が26.0%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、「週に3日以上(年151日以上)」が前回(令和3(2021)年)より2.6ポイント増加している。なお、平成30(2018)年調査では、質問文中の「運動やスポーツ」の注釈(※)の文言が異なるため、比率を直接比較することができないことから、参考として示す。

### (3) 住んでいる地域について

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



- ・全体でみると、「そう思う」(51.5%)と「ややそう思う」(24.3%)の2つを合わせた『定住意向』(75.8%)が7割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(9.2%)と「そう思わない」(4.3%)の2つを合わせた『転出意向』(13.5%)が1割台半ば近くとなっている。
- ・性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別でみると、「そう思う」では〈女性70歳以上〉が68.6%、〈男性65～69歳〉が63.3%と高くなっている。「ややそう思う」では〈女性30歳代〉が42.7%、〈女性20歳代〉が42.1%と高くなっている。

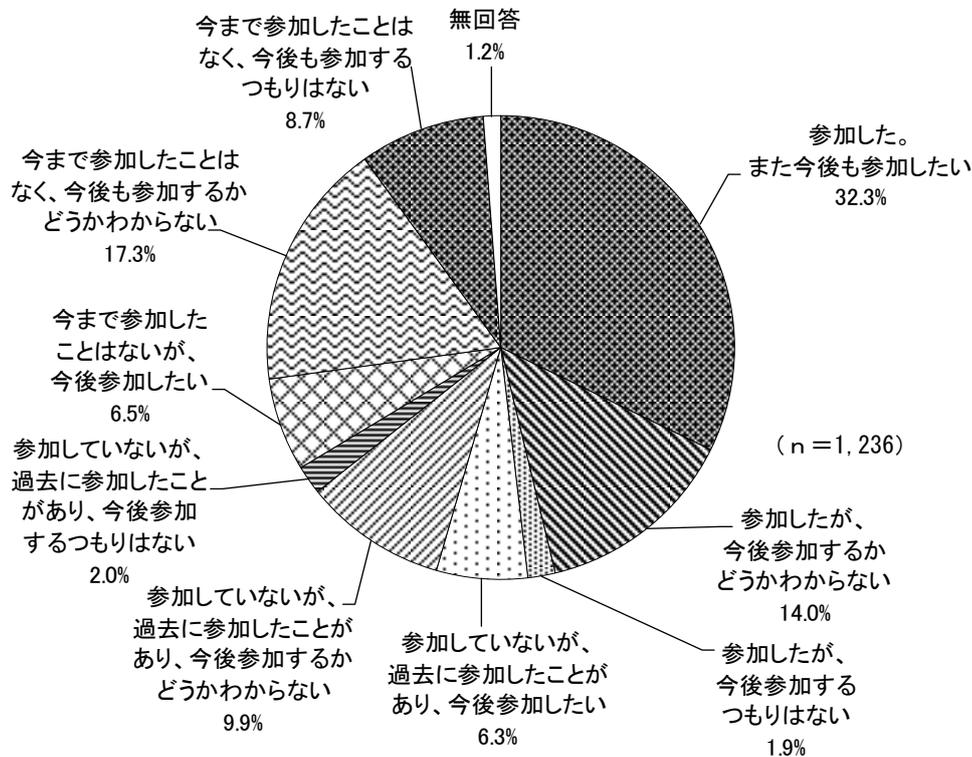
	n	『定住意向』						『転出意向』						定住意向 (計) (%)	転出意向 (計) (%)
		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答	あまりそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	無回答				
令和4(2022)年	(1,236)	51.5	24.3	9.2	4.3	7.9	2.8	9.2	4.3	7.9	2.8	75.8	13.5		
令和3(2021)年	(1,288)	50.9	26.4	9.8	5.2	7.4	0.3	9.8	5.2	7.4	0.3	77.3	15.0		
令和2(2020)年	(1,307)	53.5	17.4	7.6	3.5	17.0	1.1	7.6	3.5	17.0	1.1	70.9	11.1		
令和元(2019)年	(1,212)	55.6	20.4	6.7	5.1	11.6	0.6	6.7	5.1	11.6	0.6	76.0	11.8		
平成30(2018)年	(1,268)	54.2	20.0	7.7	6.5	10.6	1.0	7.7	6.5	10.6	1.0	74.2	14.2		

- ・過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

#### (4) 社会貢献活動について

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動(※)に参加しましたか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO(非営利活動団体)活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。



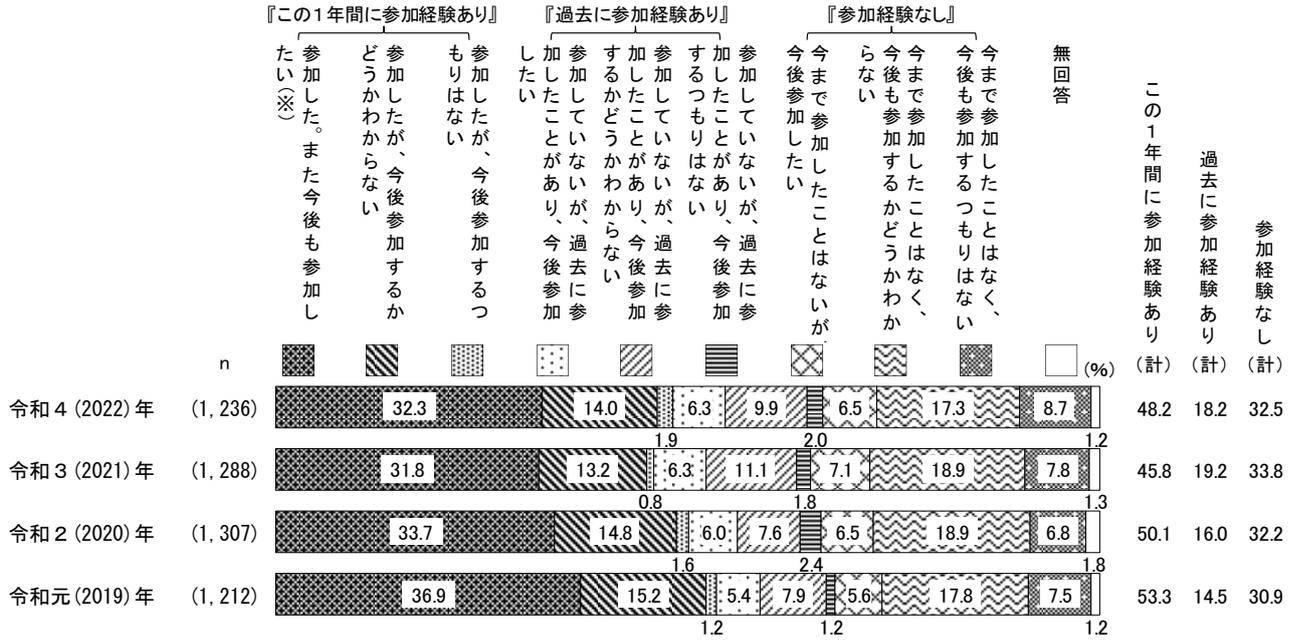
・全体で見ると、「参加した。また今後も参加したい」(32.3%)と「参加したが、今後参加するかどうかわからない」(14.0%)、「参加したが、今後参加するつもりはない」(1.9%)の3つを合わせた『この1年間に参加経験あり』(48.2%)が5割近くとなっている。

「参加していないが、過去に参加したことがある、今後参加したい」(6.3%)と「参加していないが、過去に参加したことがある、今後参加するかどうかわからない」(9.9%)、「参加していないが、過去に参加したことがある、今後参加するつもりはない」(2.0%)の3つを合わせた『過去に参加経験あり』(18.2%)が2割近くとなっている。

「今まで参加したことはないが、今後参加したい」(6.5%)と「今まで参加したことはなく、今後参加するかどうかわからない」(17.3%)、「今まで参加したことはなく、今後参加するつもりはない」(8.7%)の3つを合わせた『参加経験なし』(32.5%)が3割強となっている。

- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「参加した。また今後も参加したい」では〈女性65~69歳〉が43.7%、〈男性70歳以上〉が42.1%と高くなっている。『この1年間に参加経験あり』では〈男性70歳以上〉が63.5%、〈女性65~69歳〉が60.6%と高くなっている。

[過去の調査結果]

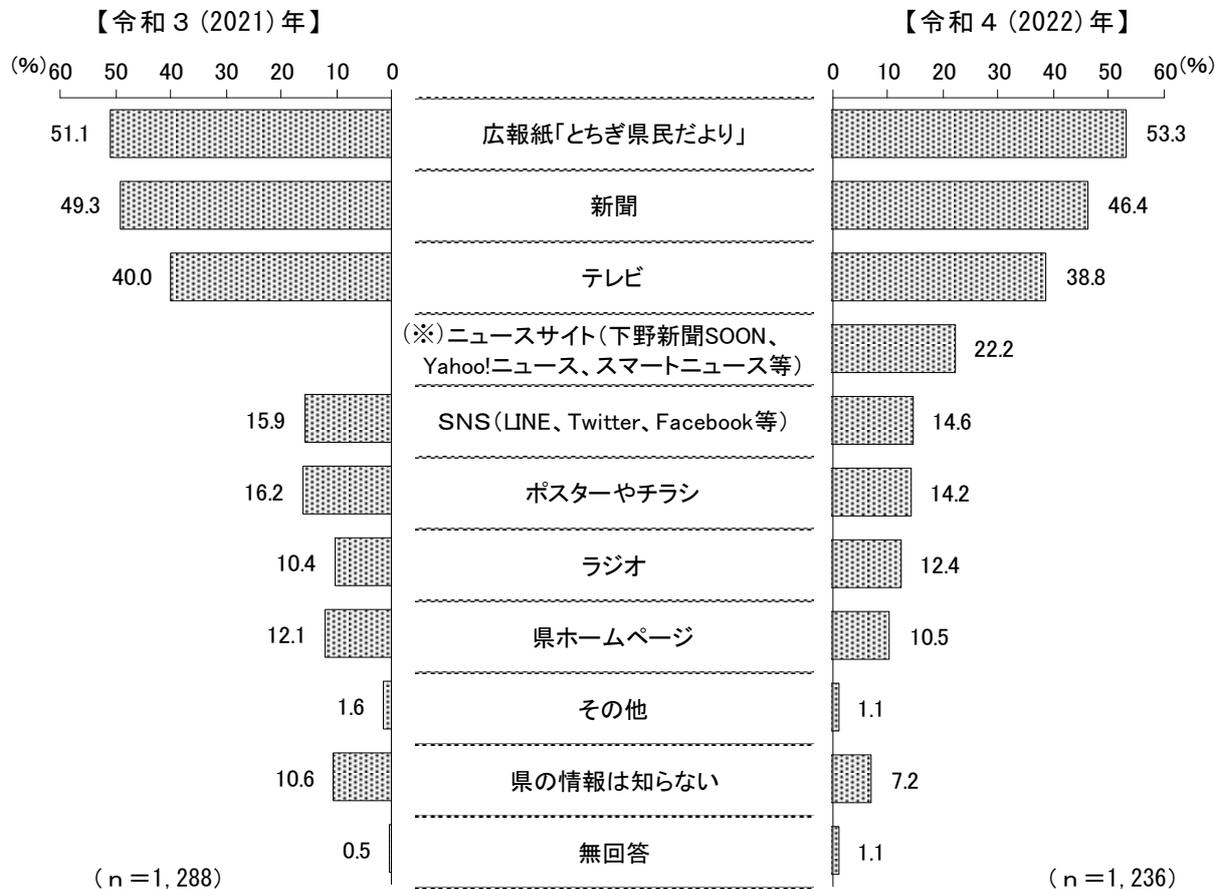


(※) 「参加した。また今後も参加したい」は、令和2(2020)年までは「参加し、今後も参加したい」としていた。

・過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

(5) 県の事業や催し、案内などの情報入手手段

問11 あなたは、県の事業や催し、案内などの情報をどのような方法でお知りになりますか。  
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,236]

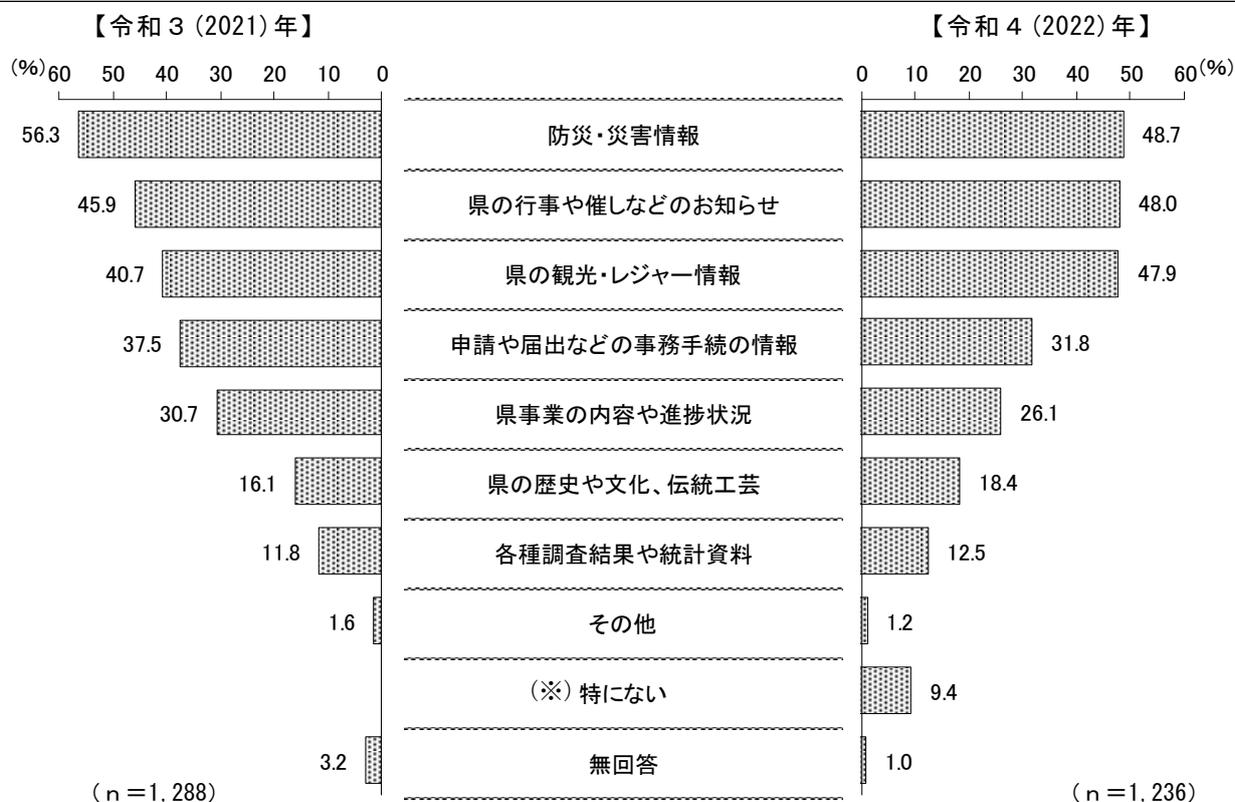


(※)「ニュースサイト(下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等)」は、今回から追加した。

- ・全体で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」(53.3%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで「新聞」(46.4%)、「テレビ」(38.8%)、「ニュースサイト(下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等)」(22.2%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈女性〉(55.7%)が〈男性〉(50.9%)より4.8ポイント高くなっている。また、「ポスターやチラシ」では〈女性〉(16.4%)が〈男性〉(11.6%)より4.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈女性70歳以上〉が75.4%、〈女性65~69歳〉が74.6%、〈男性70歳以上〉が71.3%と高くなっている。「新聞」では〈男性70歳以上〉が74.4%と高くなっている。「テレビ」では〈女性70歳以上〉が51.2%と高くなっている。「ニュースサイト(下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等)」では〈男性30歳代〉が38.3%と高くなっている。「SNS(LINE、Twitter、Facebook等)」では〈男性20歳代〉が36.1%、〈男性30歳代〉が30.0%と高くなっている。一方、「県の情報は知らない」では〈女性20歳代〉が18.4%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

## (6) 知りたい県政情報

問12 あなたは、県のどのような情報を知りたいですか。次の中からいくつでも選んでください。  
[n = 1,236]



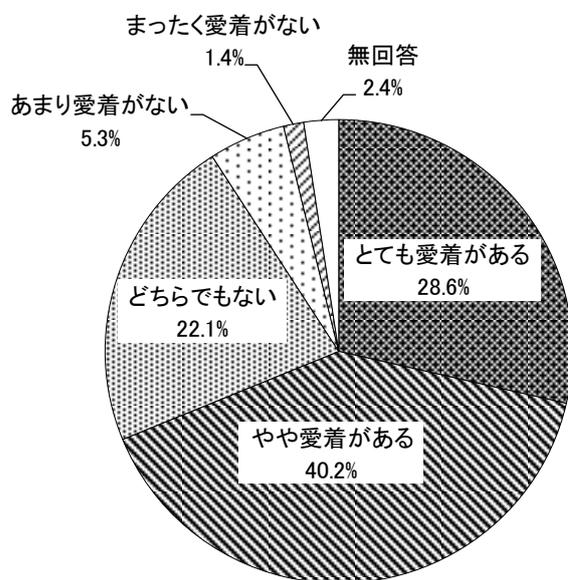
(※)「特にない」は、今回から追加した。

- ・全体で見ると、「防災・災害情報」(48.7%)が5割近くで最も高く、次いで「県の行事や催しなどのお知らせ」(48.0%)、「県の観光・レジャー情報」(47.9%)、「申請や届出などの事務手続の情報」(31.8%)、「県事業の内容や進捗状況」(26.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「県事業の内容や進捗状況」では〈男性〉(33.4%)が〈女性〉(20.4%)より13.0ポイント高くなっている。一方、「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性〉(36.0%)が〈男性〉(26.4%)より9.6ポイント高くなっている。また、「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈女性〉(52.9%)が〈男性〉(43.5%)より9.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「防災・災害情報」では〈女性50歳代〉が59.3%と高くなっている。「県の観光・レジャー情報」では〈女性50歳代〉が63.7%、〈女性30歳代〉が61.3%と高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈女性20歳代〉が57.9%と高くなっている。「県事業の内容や進捗状況」では〈男性30歳代〉が41.7%と高くなっている。また、「各種調査結果や統計資料」では〈男性30歳代〉が25.0%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「防災・災害情報」が7.6ポイント減少している。一方、「県の観光・レジャー情報」が7.2ポイント増加している。

## 4 栃木県への愛着と誇りについて

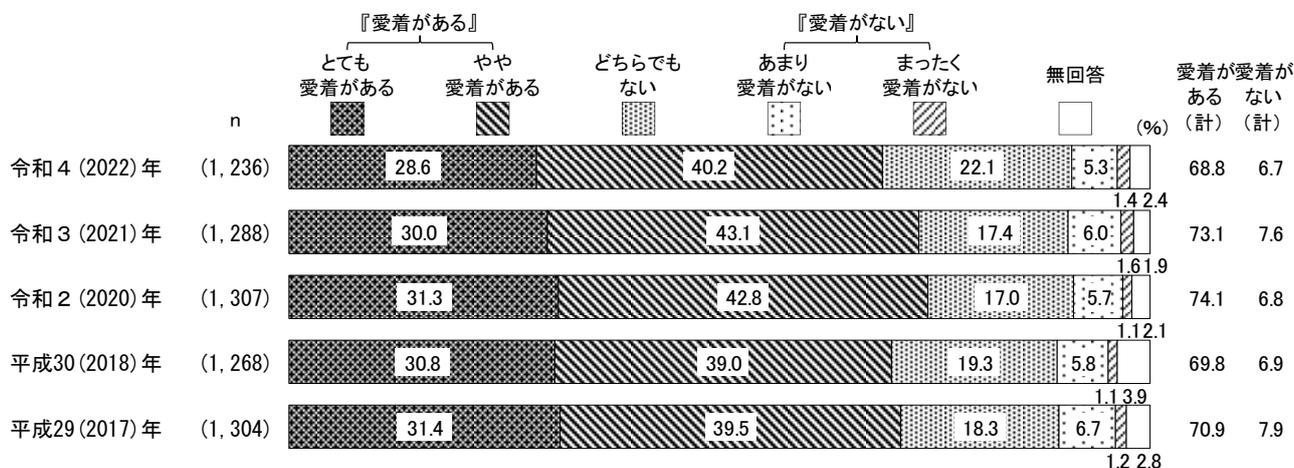
### (1) 栃木県に対する愛着

問13 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



(n=1,236)

- 全体で見ると、「とても愛着がある」(28.6%)と「やや愛着がある」(40.2%)の2つを合わせた『愛着がある』(68.8%)が7割近くとなっている。一方、「あまり愛着がない」(5.3%)と「まったく愛着がない」(1.4%)の2つを合わせた『愛着がない』(6.7%)が1割未満となっている。また、「どちらでもない」(22.1%)が2割強となっている。
- 性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- 性/年齢別で見ると、「とても愛着がある」では〈男性70歳以上〉が34.8%、〈女性70歳以上〉が34.3%と高くなっている。『愛着がある』では〈女性20歳代〉が76.4%、〈男性65～69歳〉が75.6%、〈男性60～64歳〉が74.6%と高くなっている。一方、『愛着がない』では〈男性30歳代〉が13.4%、〈女性30歳代〉が12.0%と高くなっている。



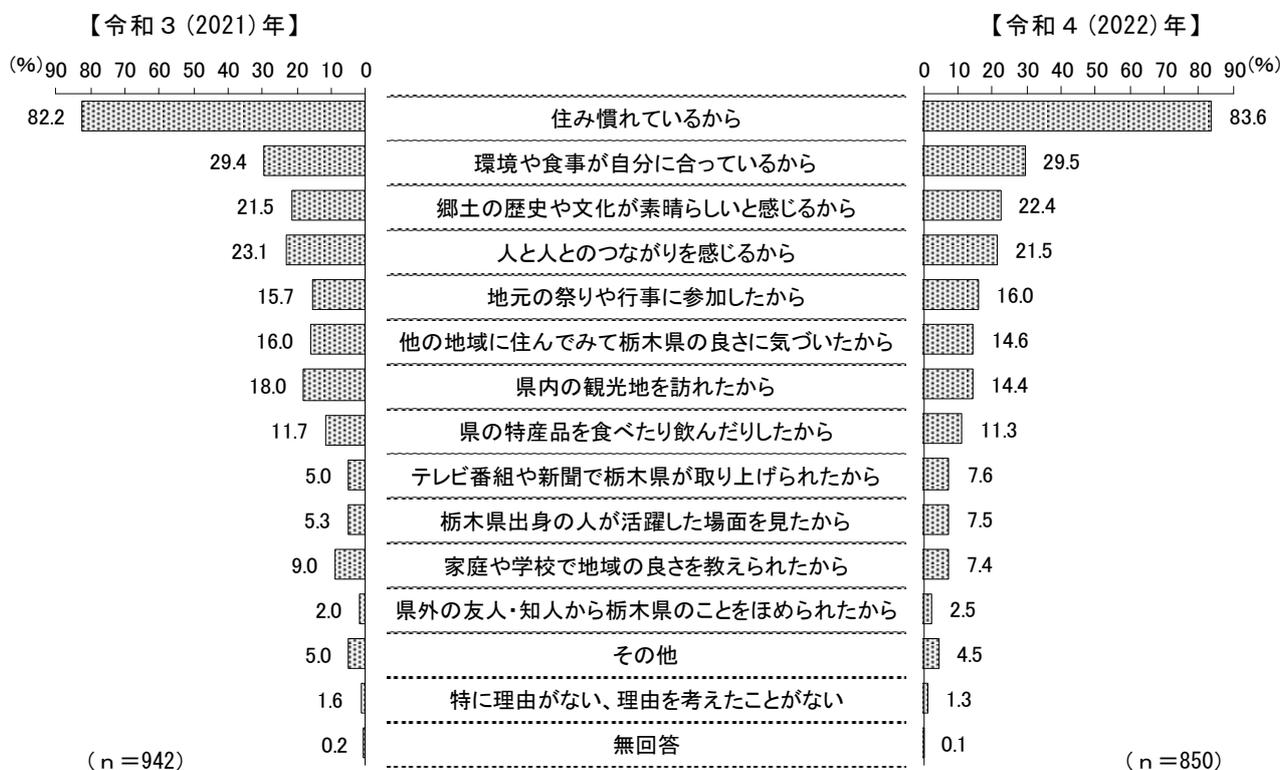
- 過去の調査結果と比較すると、『愛着がある』が前回(令和3(2021)年)より4.3ポイント減少している。

## (2) 栃木県に愛着を感じる理由

(問13で選択肢「とても愛着がある」、「やや愛着がある」を選んだ方のみお答えください)

問14 あなたが愛着を感じる理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

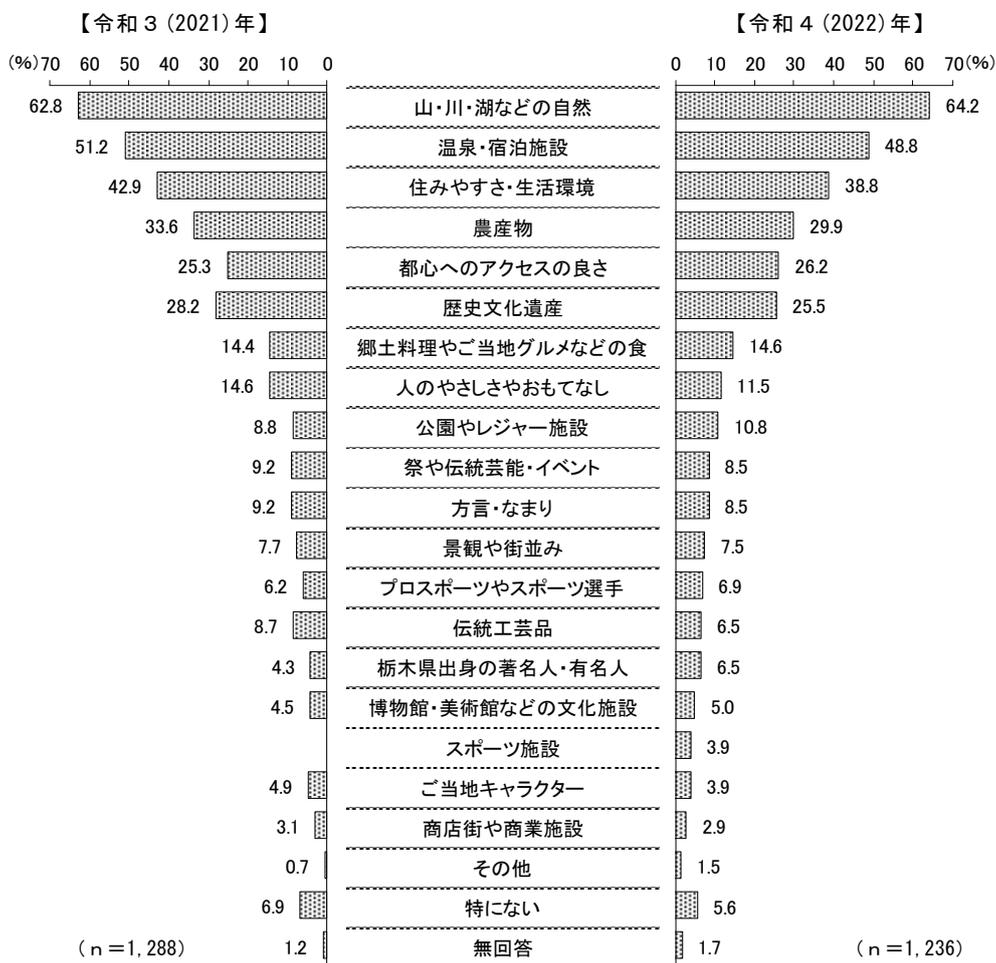
[n=850]



- ・全体で見ると、「住み慣れているから」(83.6%)が8割台半ば近くで最も高くなっている。
- ・性別で見ると、「県の特産品を食べたり飲んだりしたから」では〈女性〉(14.6%)が〈男性〉(7.3%)より7.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「環境や食事が自分に合っているから」では〈男性40歳代〉が40.7%と高くなっている。「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈男性70歳以上〉が37.2%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの

問15 あなたが栃木県の魅力として自慢できるものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,236]

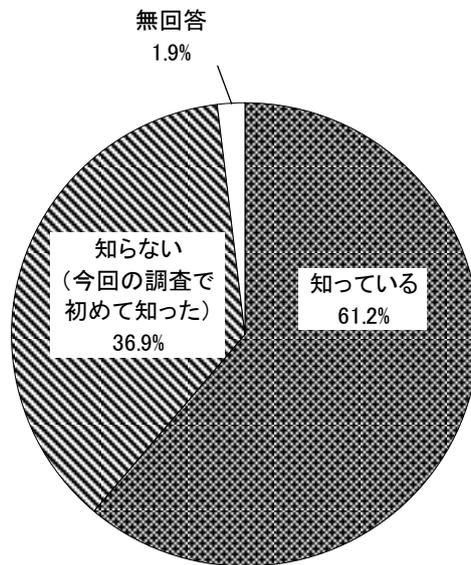


- ・全体で見ると、「山・川・湖などの自然」(64.2%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「温泉・宿泊施設」(48.8%)、「住みやすさ・生活環境」(38.8%)、「農産物」(29.9%)、「都心へのアクセスの良さ」(26.2%)、「歴史文化遺産」(25.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「農産物」では〈女性〉(32.9%)が〈男性〉(26.6%)より6.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「山・川・湖などの自然」では〈男性65～69歳〉が77.6%と高くなっている。「温泉・宿泊施設」では〈女性65～69歳〉が63.4%と高くなっている。「農産物」では〈女性65～69歳〉が47.9%、〈女性60～64歳〉が42.9%と高くなっている。「都心へのアクセスの良さ」では〈女性70歳以上〉が36.2%と高くなっている。「歴史文化遺産」では〈女性50歳代〉が38.1%と高くなっている。「郷土料理やご当地グルメなどの食」では〈女性60～64歳〉が25.0%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

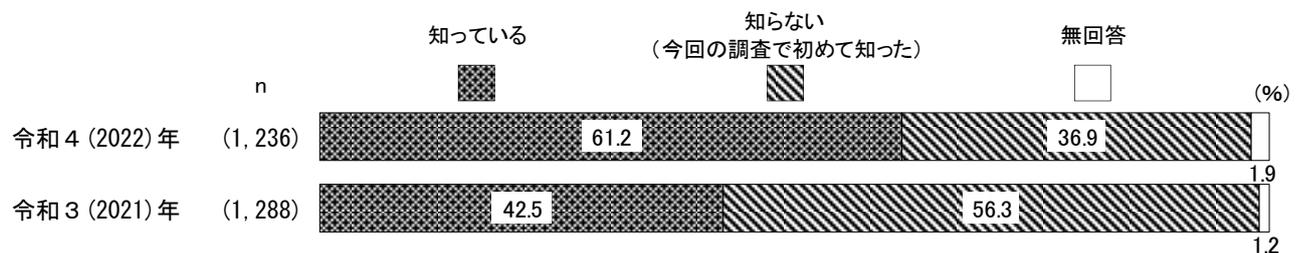
## 5 SDGsについて

### (1) SDGsの認知度

問16 あなたは、SDGs (イステイジーズ)という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



- ・全体で見ると、「知っている」(61.2%)が6割強、「知らない(今回の調査で初めて知った)」(36.9%)が3割台半ばを超えている。
- ・性別で見ると、「知っている」では〈男性〉(64.7%)が〈女性〉(59.1%)より5.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「知っている」では〈女性30歳代〉が80.0%と高くなっている。一方、「知らない(今回の調査で初めて知った)」では〈女性70歳以上〉が60.9%と高くなっている。

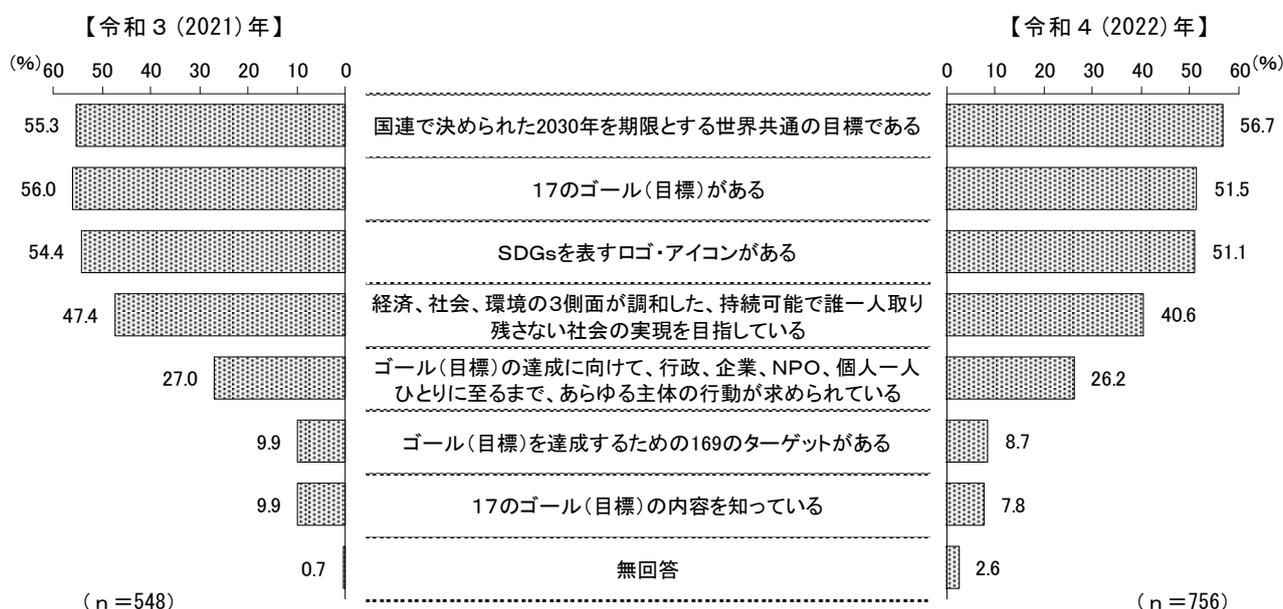


- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「知っている」が18.7ポイント増加している。

## (2) SDGsのどのようなことを知っているか

(問16で選択肢「知っている」を選んだ方のみお答えください)

問17 SDGs(イステイジーズ)について、どのようなことを知っていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=756]



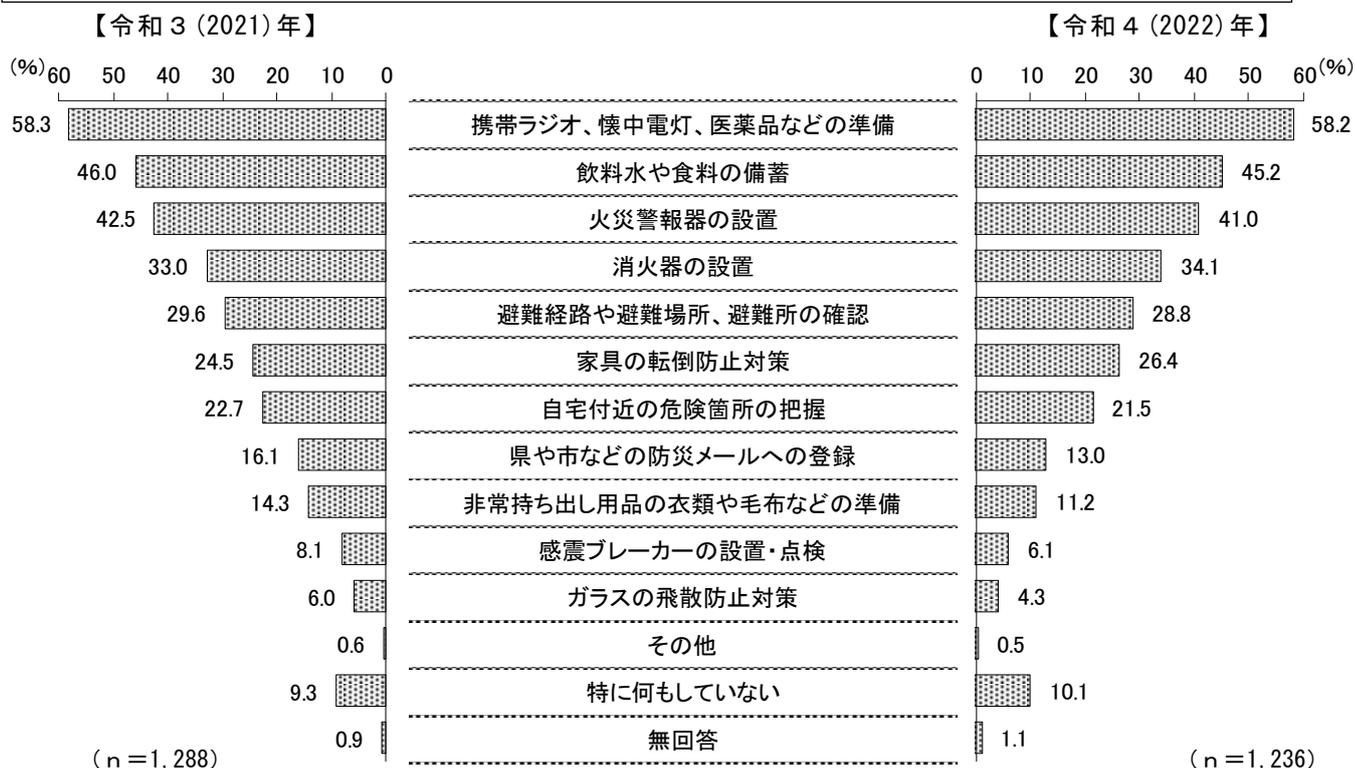
- 全体で見ると、「国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である」(56.7%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「17のゴール(目標)がある」(51.5%)、「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」(51.1%)、「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」(40.6%)、「ゴール(目標)の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている」(26.2%)の順となっている。一方、「ゴール(目標)を達成するための169のターゲットがある」(8.7%)及び「17のゴール(目標)の内容を知っている」(7.8%)が1割未満となっている。
- 性別で見ると、「17のゴール(目標)がある」では〈男性〉(56.9%)が〈女性〉(46.9%)より10.0ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「17のゴール(目標)がある」では〈男性20歳代〉が76.9%、〈男性40歳代〉が65.2%、〈女性20歳代〉が64.3%と高くなっている。「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」では〈女性30歳代〉が68.3%、〈女性20歳代〉が64.3%、〈男性20歳代〉が61.5%と高くなっている。「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」では〈女性70歳以上〉が60.9%、〈男性70歳以上〉が54.1%と高くなっている。「ゴール(目標)の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている」では〈男性20歳代〉が38.5%と高くなっている。また、「ゴール(目標)を達成するための169のターゲットがある」では〈男性20歳代〉が38.5%と高くなっている。「17のゴール(目標)の内容を知っている」では〈男性20歳代〉が23.1%、〈女性20歳代〉が21.4%と高くなっている。
- 前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」が6.8ポイント減少している。

## 6 地域防災について

### (1) 災害に対する備え

問18 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,236]

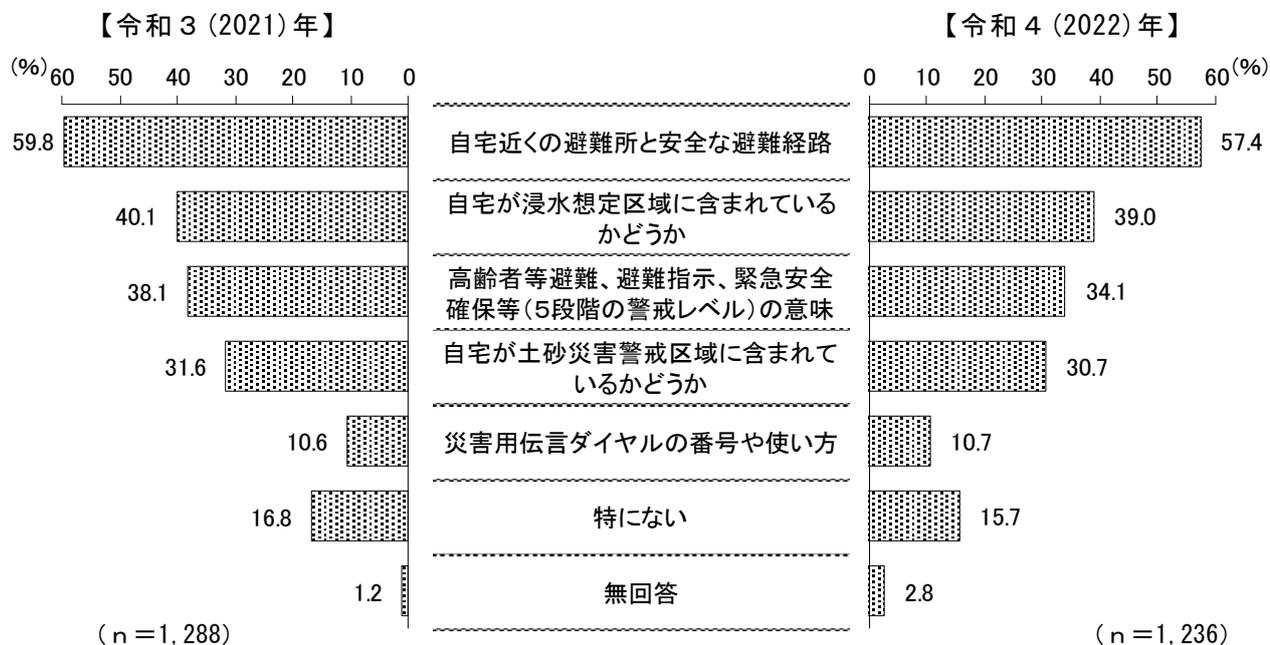
※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。



- ・全体でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(58.2%)が6割近くで最も高く、次いで「飲料水や食料の備蓄」(45.2%)、「火災警報器の設置」(41.0%)、「消火器の設置」(34.1%)、「避難経路や避難場所、避難所の確認」(28.8%)、「家具の転倒防止対策」(26.4%)の順となっている。
- ・性別でみると、「飲料水や食料の備蓄」では〈女性〉(47.7%)が〈男性〉(42.5%)より5.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈男性70歳以上〉が72.6%、〈女性65~69歳〉が71.8%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性60~64歳〉が56.9%、〈女性60~64歳〉が53.6%、〈女性65~69歳〉が53.5%、〈男性70歳以上〉が44.5%と高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性65~69歳〉が43.7%と高くなっている。「家具の転倒防止対策」では〈女性60~64歳〉が41.1%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈女性50歳代〉が24.8%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 災害の際に必要な情報について知っていること

問19 あなたは、災害の際に必要な情報について、どのようなことを知っていますか。  
次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1, 236]

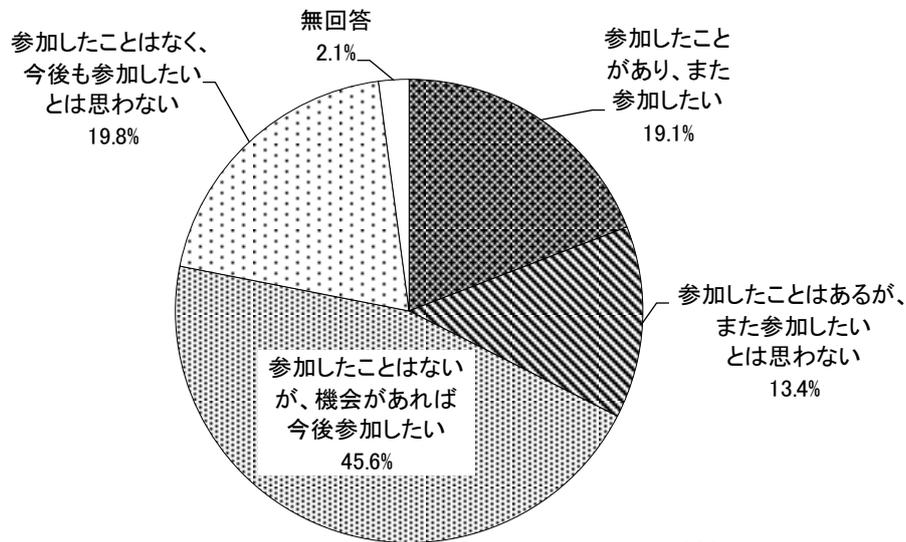


- ・全体でみると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」(57.4%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」(39.0%)、「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等(5段階の警戒レベル)の意味」(34.1%)、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」(30.7%)の順となっている。
- ・性別でみると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈男性〉(44.0%)が〈女性〉(36.0%)より8.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈男性40歳代〉が53.0%、〈男性50歳代〉が50.6%、〈女性40歳代〉が50.5%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈女性40歳代〉が43.4%、〈男性40歳代〉が41.0%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等(5段階の警戒レベル)の意味」が4.0ポイント減少している。

### (3) 防災訓練の参加状況

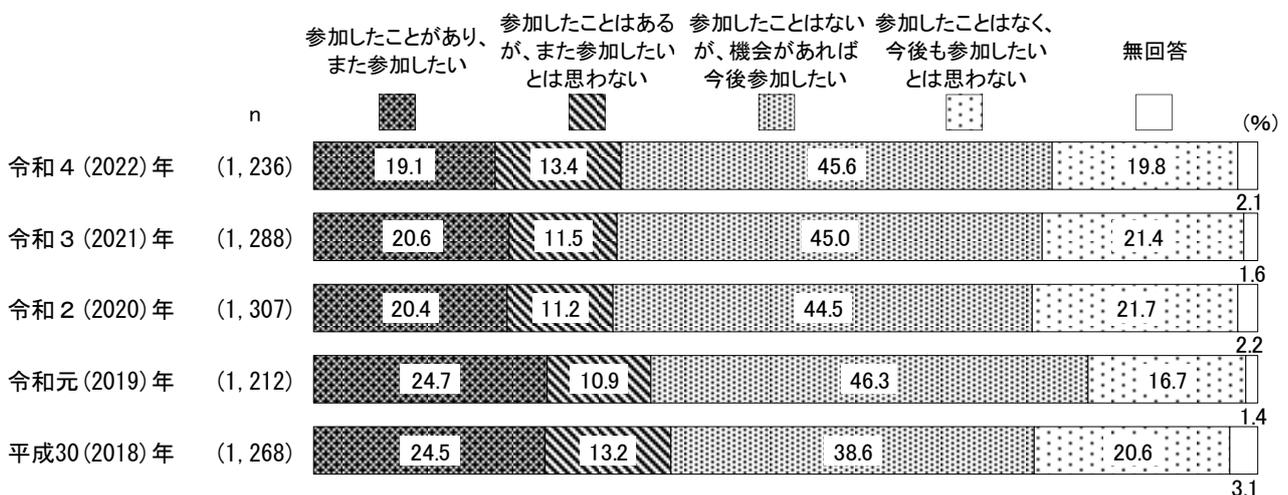
問20 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]



(n=1,236)

- ・全体で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」(19.1%)が2割弱、「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」(13.4%)が1割台半ば近く、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(45.6%)が4割台半ば、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(19.8%)が2割弱となっている。
- ・性別で見ると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性〉(52.4%)が〈男性〉(38.3%)より14.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈男性60～64歳〉が29.4%と高くなっている。「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」では〈男性50歳代〉が27.3%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈女性30歳代〉が56.0%と高くなっている。

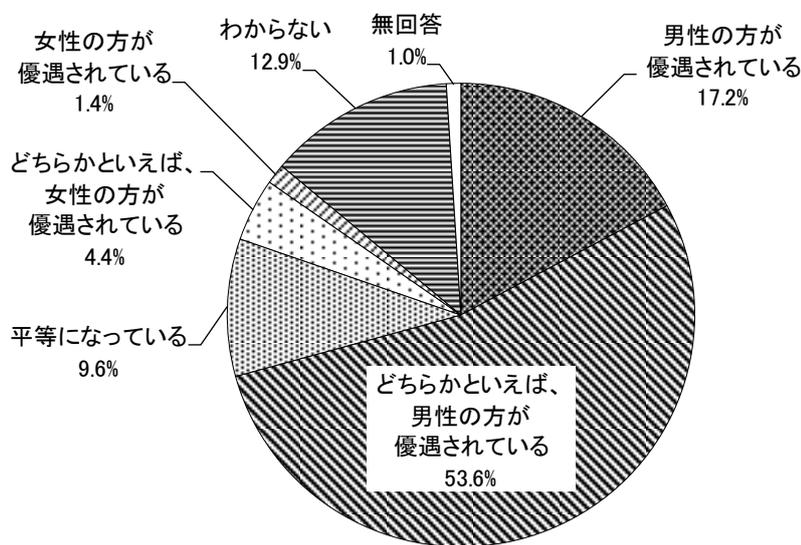


- ・過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

## 7 男女平等意識について

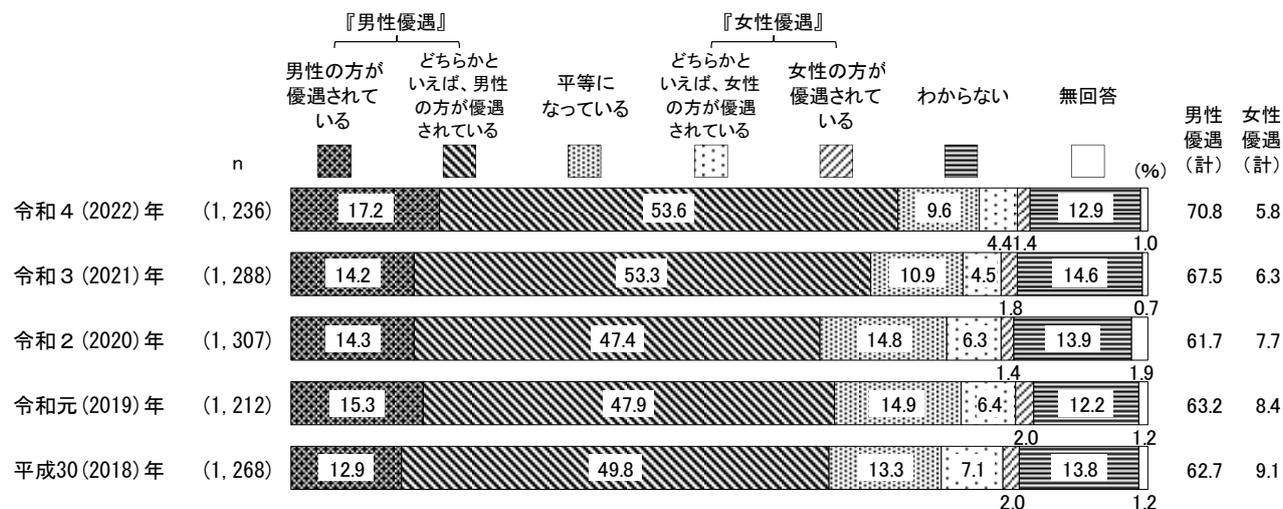
### (1) 社会全体の中での男女の地位の平等感

問21 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



(n=1,236)

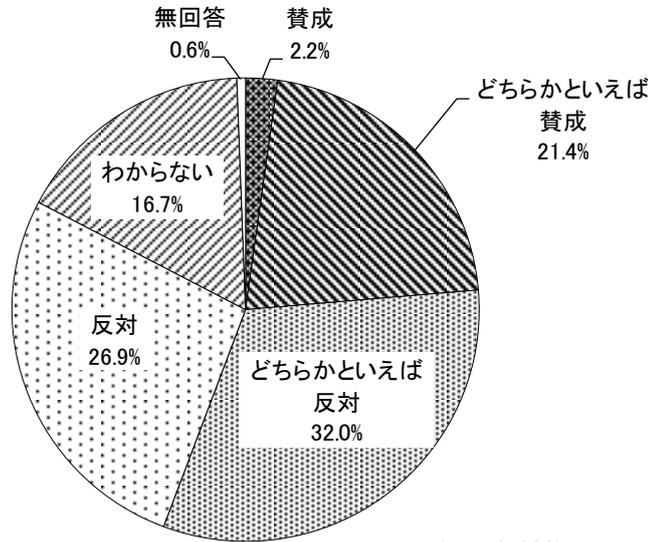
- 全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(17.2%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(53.6%)の2つを合わせた『男性優遇』(70.8%)が約7割となっている。また、「平等になっている」(9.6%)が1割弱となっている。
- 性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(73.8%)が〈男性〉(67.6%)より6.2ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性60～64歳〉が85.7%、〈男性65～69歳〉が81.6%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性20歳代〉が27.8%、〈男性40歳代〉が16.8%と高くなっている。



- 過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が前々回(令和2(2020)年)より増加が続き、前々回(令和2(2020)年)より9.1ポイント増加している。

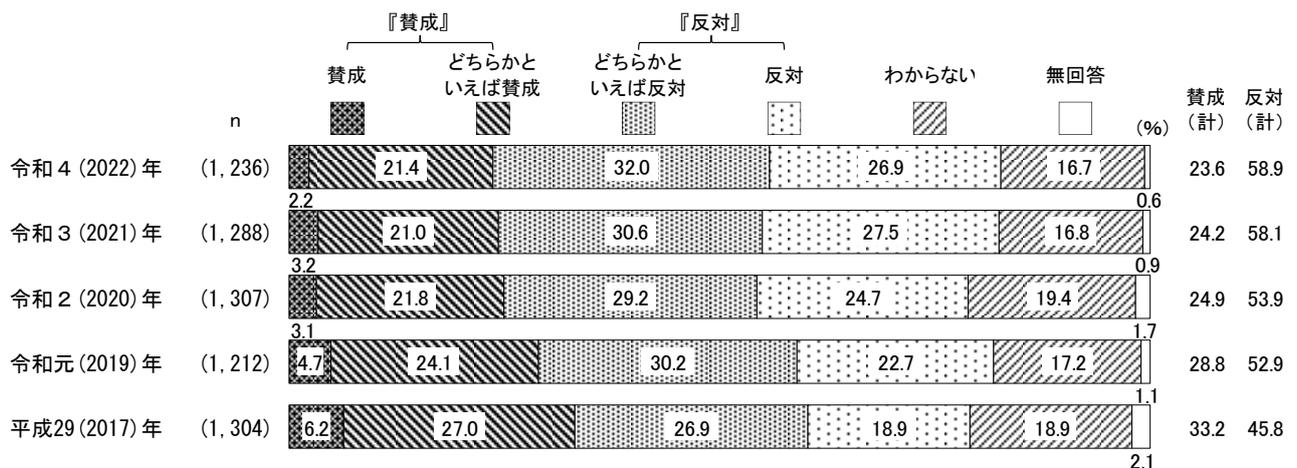
## (2) 固定的な性別役割分担意識

問22 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように  
 思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



(n=1,236)

- ・全体で見ると、「賛成」(2.2%)と「どちらかといえば賛成」(21.4%)の2つを合わせた『賛成』(23.6%)が2割台半ば近くとなっている。一方、「どちらかといえば反対」(32.0%)と「反対」(26.9%)の2つを合わせた『反対』(58.9%)が6割近くとなっている。
- ・性別で見ると、『反対』では〈女性〉(64.3%)が〈男性〉(53.3%)より11.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『賛成』では〈男性70歳以上〉が38.4%、〈女性70歳以上〉が34.3%と高くなっている。一方、『反対』では〈女性20歳代〉が78.9%、〈女性65～69歳〉が74.6%、〈女性50歳代〉が71.7%と高くなっている。

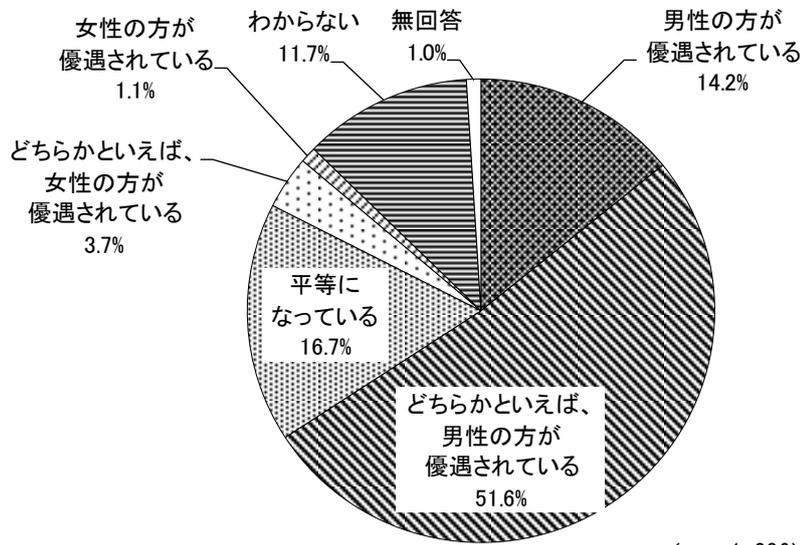


- ・過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

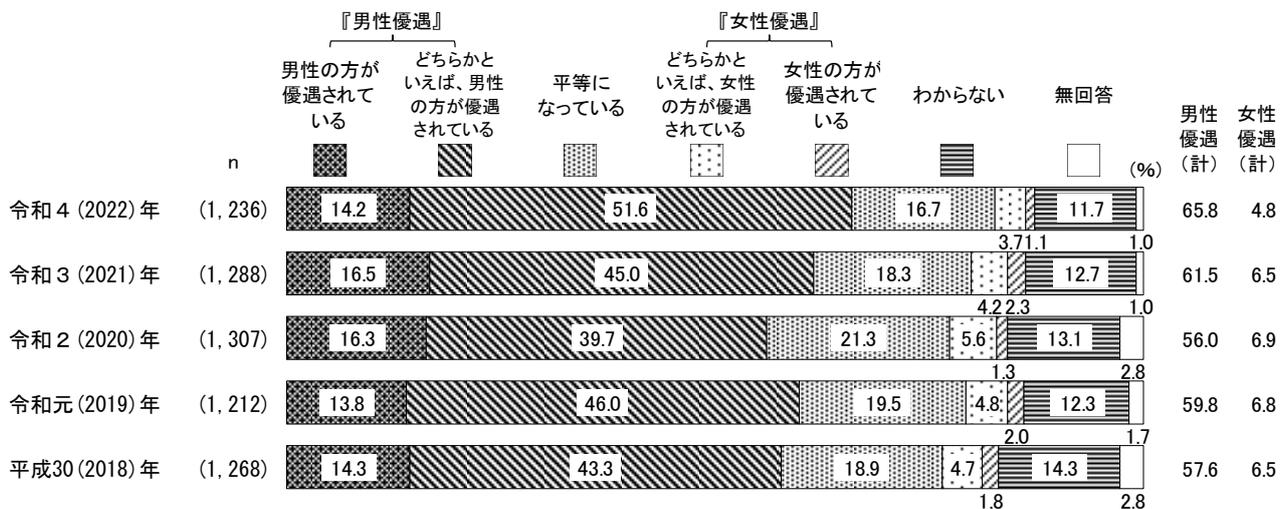
### (3) 働く場での男女の地位の平等感

問23 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。(現在働いていない方も、イメージでお答えください。)

[n = 1, 236]



- ・全体で見ると、「男性の方が優遇されている」(14.2%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(51.6%)の2つを合わせた『男性優遇』(65.8%)が6割台半ばとなっている。「平等になっている」(16.7%)は1割台半ばを超えている。
- ・性別で見ると、『男性優遇』では〈女性〉(69.3%)が〈男性〉(62.2%)より7.1ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(7.0%)が〈女性〉(3.2%)より3.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『男性優遇』では〈女性20歳代〉が76.3%、〈女性65~69歳〉が76.1%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性20歳代〉が16.7%と高くなっている。

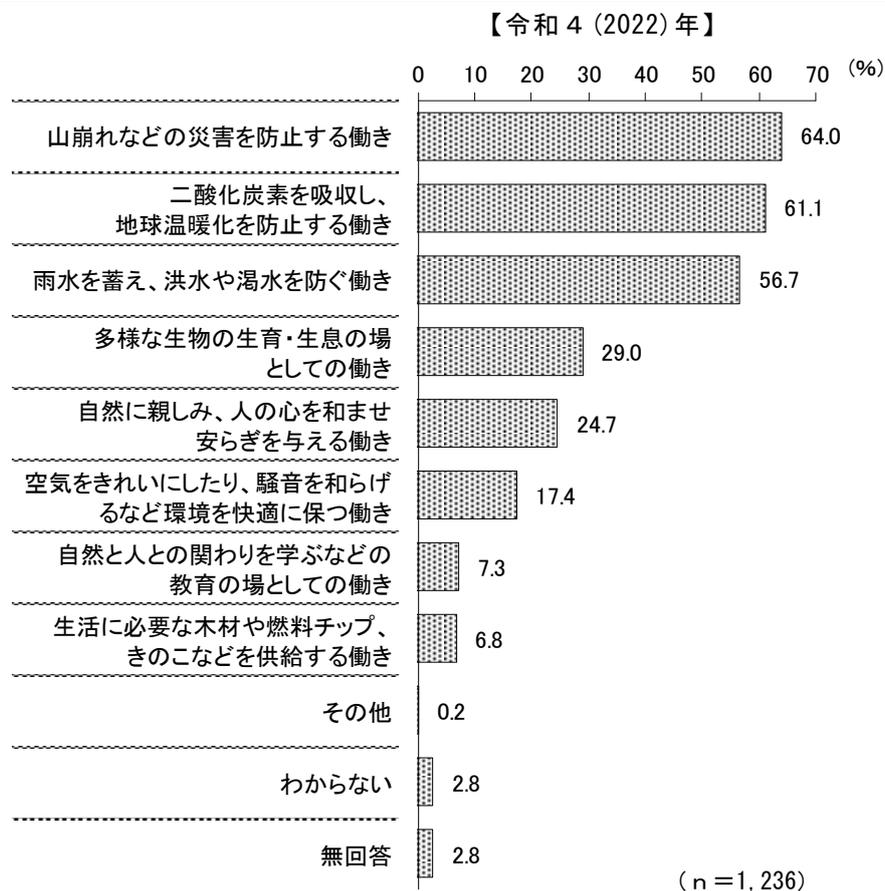


- ・過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が前々回(令和2(2020)年)より増加が続き、前々回(令和2(2020)年)より9.8ポイント増加している。

## 8 とちぎの元気な森づくり県民税について

### (1) 重要と考える森林の働き

問24 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,236]

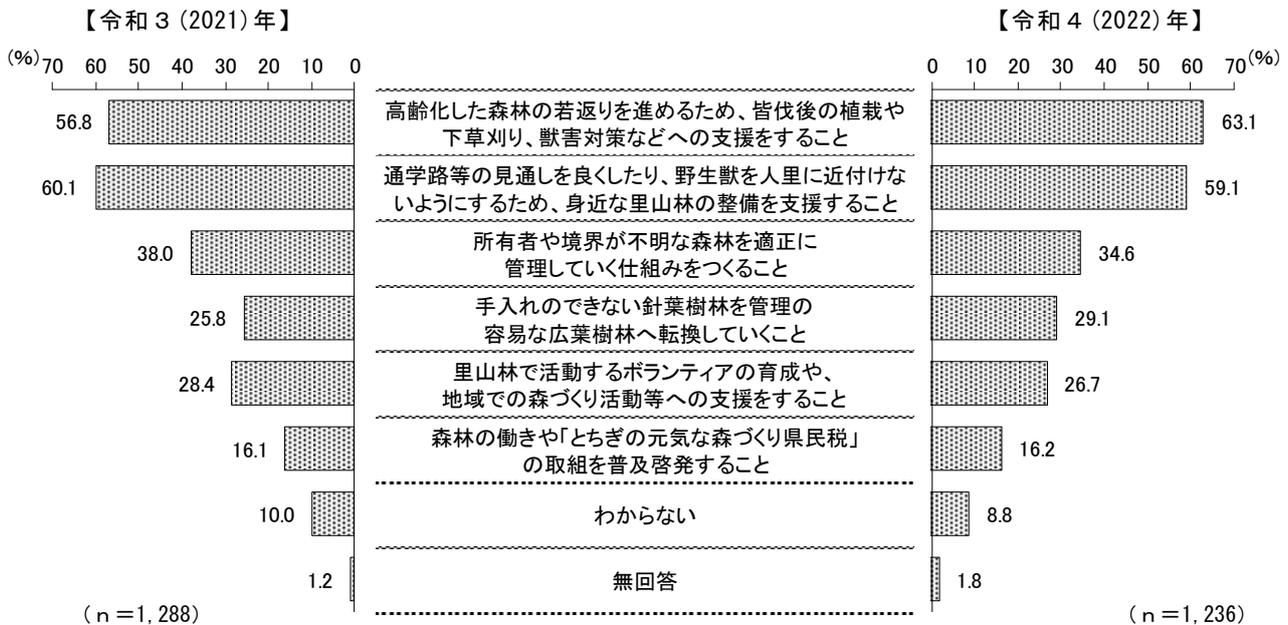


- ・全体で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」(64.0%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(61.1%)、「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」(56.7%)、「多様な生物の生育・生息の場としての働き」(29.0%)、「自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き」(24.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」では〈男性〉(61.1%)が〈女性〉(53.5%)より7.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」では〈男性40歳代〉が78.3%と高くなっている。「雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き」では〈男性65～69歳〉が67.3%、〈女性50歳代〉が67.3%、〈男性70歳以上〉が67.1%と高くなっている。「多様な生物の生育・生息の場としての働き」では〈女性30歳代〉が49.3%、〈男性30歳代〉が40.0%、〈女性20歳代〉が39.5%と高くなっている。「自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き」では〈女性60～64歳〉が35.7%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈男性20歳代〉が27.8%と高くなっている。

(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問25 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,236]



- ・全体で見ると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」(63.1%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(59.1%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(34.6%)、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」(29.1%)、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」(26.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉(36.2%)が〈女性〉(24.4%)より11.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」では〈女性60～64歳〉が76.8%と高くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性60～64歳〉が73.2%、〈男性40歳代〉が71.1%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈女性20歳代〉が50.0%と高くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性65～69歳〉が44.9%、〈男性50歳代〉が40.3%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」が6.3ポイント増加している。

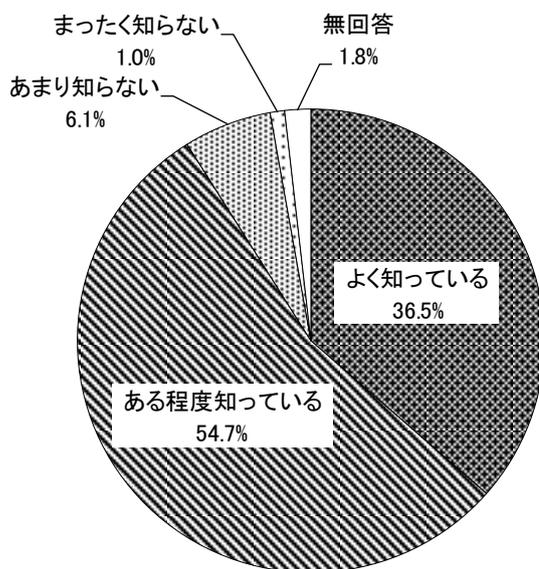
## 9 食品ロスの削減について

### (1) 食品ロスの問題の認知度

問26 あなたは、「食品ロス」(※)の問題を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

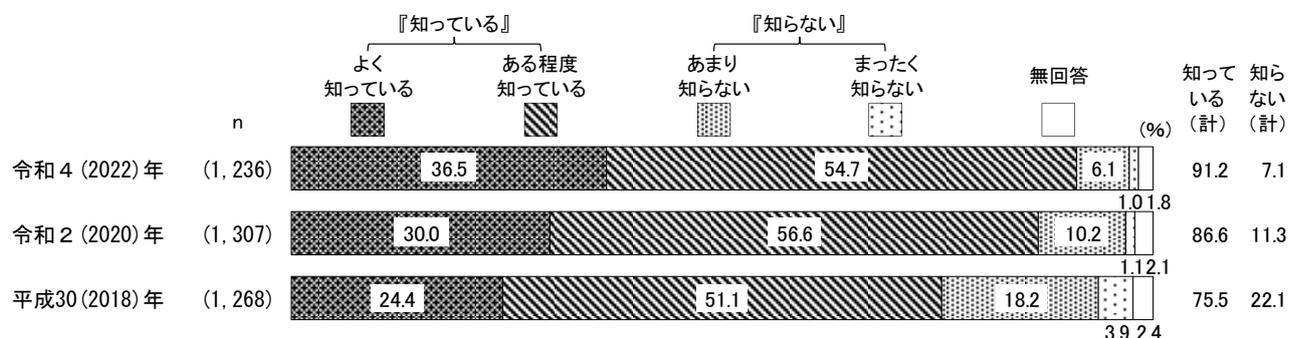
[n=1,236]

※ 食品ロスとは、食べ残しや賞味期限切れの食品など、本来食べられる部分が捨てられたものをいいます。



(n=1,236)

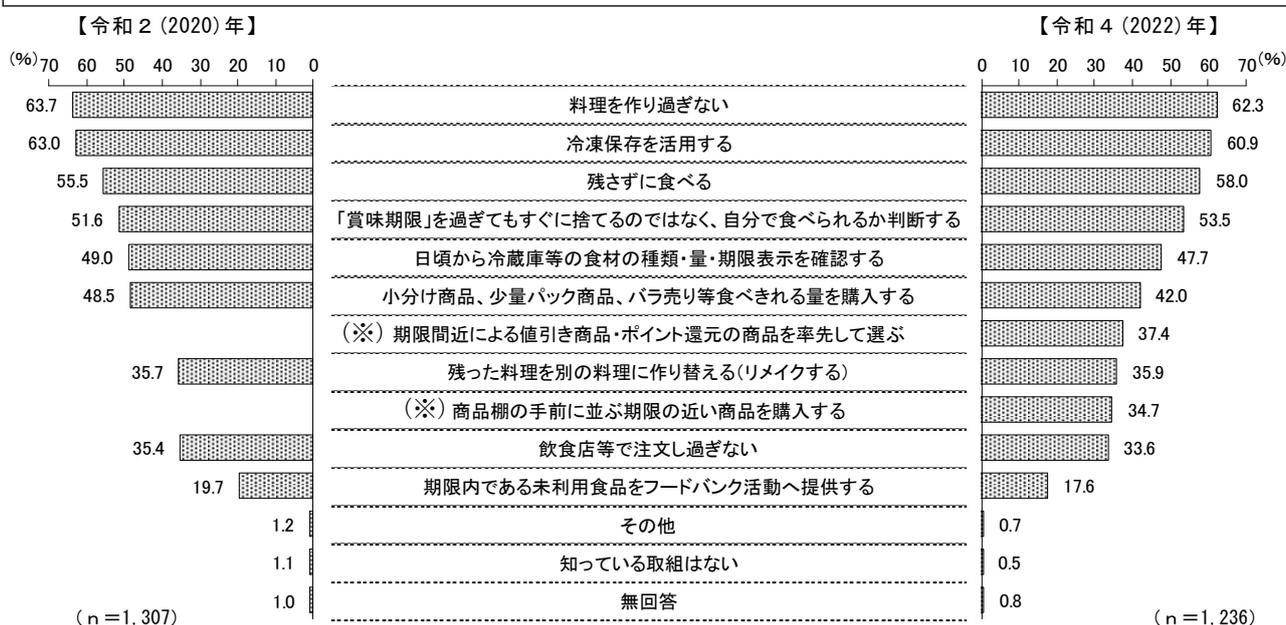
- ・全体で見ると、「よく知っている」(36.5%)と「ある程度知っている」(54.7%)の2つを合わせた『知っている』(91.2%)が9割強となっている。
- ・性別で見ると、『知っている』では〈女性〉(92.8%)が〈男性〉(89.7%)より3.1ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「よく知っている」では〈女性60～64歳代〉が46.4%、〈男性70歳以上〉が46.3%と高くなっている。一方、『知らない』では〈男性30歳代〉が20.0%、〈男性20歳代〉が16.7%、〈男性60～64歳代〉が15.7%と高くなっている。



- ・過去の調査結果と比較すると、『知っている』が前回(令和2(2020)年)より4.6ポイント増加している。

## (2) 食品ロスが発生させないための取組で知っていること

問27 あなたが知っている、食品ロスが発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,236]

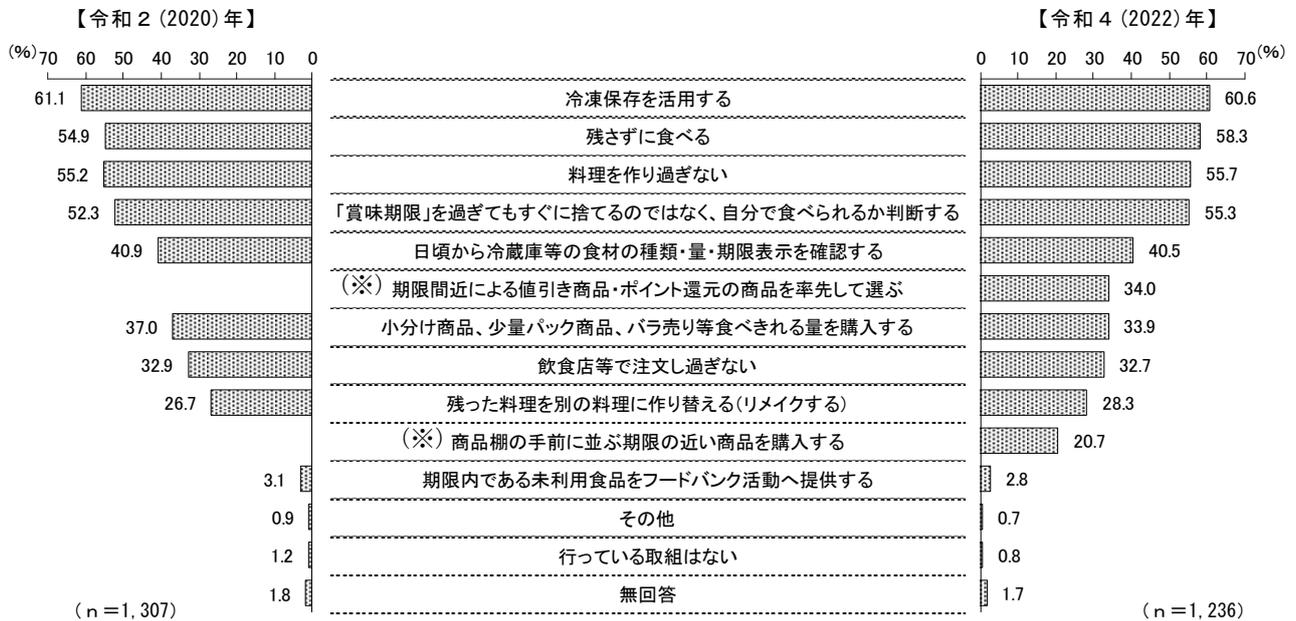


(※)「期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を優先して選ぶ」、「商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する」は、今回調査で追加した選択肢である。

- ・全体で見ると、「料理を作り過ぎない」(62.3%)が6割強で最も高く、次いで「冷凍保存を活用する」(60.9%)、「残さずに食べる」(58.0%)、「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(53.5%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)」では〈女性〉(43.3%)が〈男性〉(27.5%)より15.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「料理を作り過ぎない」では〈女性65～69歳〉が76.1%、〈男性65～69歳〉が73.5%と高くなっている。「冷凍保存を活用する」では〈女性20歳代〉が78.9%と高くなっている。「残さずに食べる」では〈女性20歳代〉が78.9%、〈男性30歳代〉が76.7%、〈女性30歳代〉が73.3%と高くなっている。「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」では〈女性60～64歳〉が64.3%、〈女性40歳代〉が61.6%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 食品ロスが発生させないために現在取り組んでいること

問28 あなたが現在行っている、食品ロスが発生させない（食品を無駄にしない）ための取組はどのようなものですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,236]



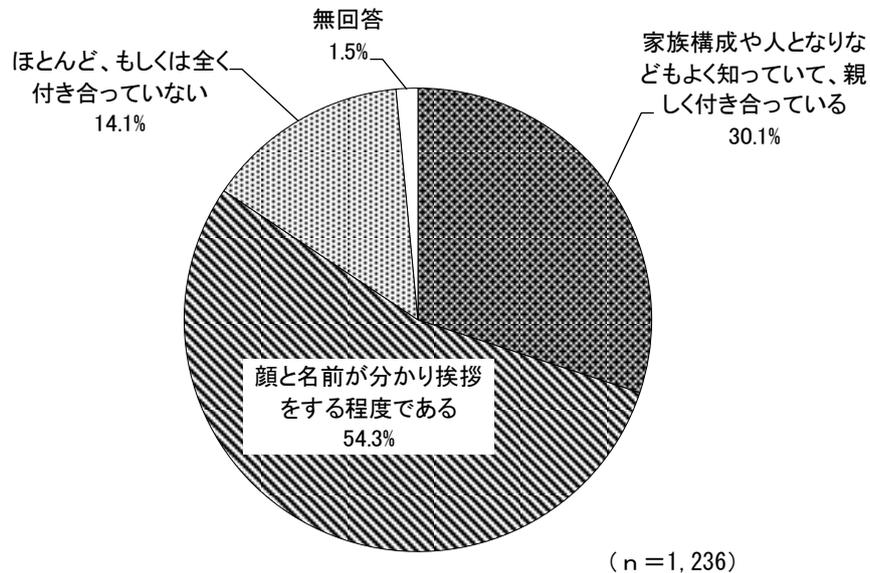
(※) 「期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を優先して選ぶ」、「商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する」は、今回調査で追加した選択肢である。

- ・全体でみると、「冷凍保存を活用する」(60.6%)が約6割で最も高く、次いで「残さずに食べる」(58.3%)、「料理を作り過ぎない」(55.7%)、「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」(55.3%)の順となっている。
- ・性別でみると、「冷凍保存を活用する」では〈女性〉(67.6%)が〈男性〉(51.8%)より15.8ポイント高くなっている。「残った料理を別の料理に作り替える(リメイクする)」では〈女性〉(35.3%)が〈男性〉(19.7%)より15.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「冷凍保存を活用する」では〈女性70歳以上〉が71.0%と高くなっている。「残さずに食べる」では〈男性30歳代〉が75.0%、〈女性20歳代〉が73.7%、〈女性30歳代〉が73.3%と高くなっている。「料理を作り過ぎない」では〈女性65~69歳〉が73.2%、〈女性70歳以上〉が67.1%と高くなっている。「『賞味期限』を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」では〈女性60~64歳〉が73.2%と高くなっている。「日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する」では〈女性60~64歳〉が62.5%と高くなっている。「期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を優先して選ぶ」では〈女性40歳代〉が48.5%、〈女性50歳代〉が46.9%と高くなっている。「飲食店等で注文し過ぎない」では、〈女性20歳代〉が52.6%、〈男性40歳代〉が48.2%、〈女性30歳代〉が46.7%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

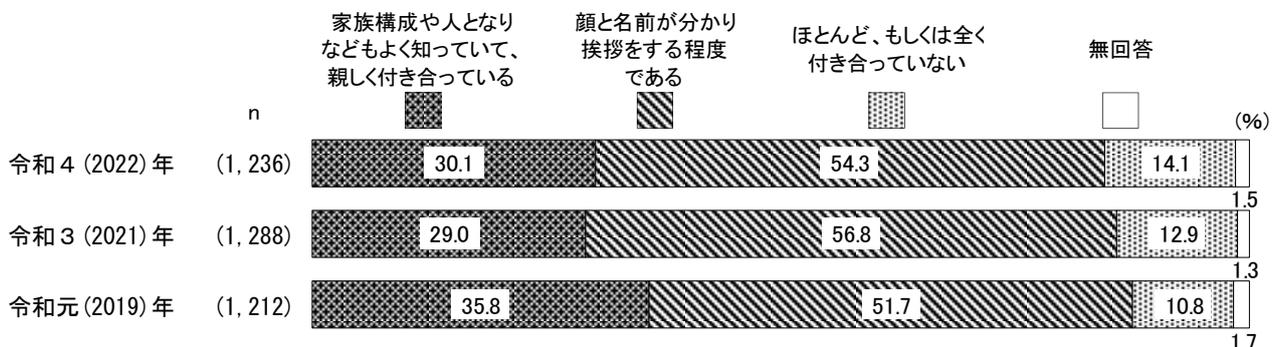
## 10 地域のつながりについて

### (1) 現在のご近所との関係

問29 あなたは現在、ご近所（隣近所など）の方とどのような関係ですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



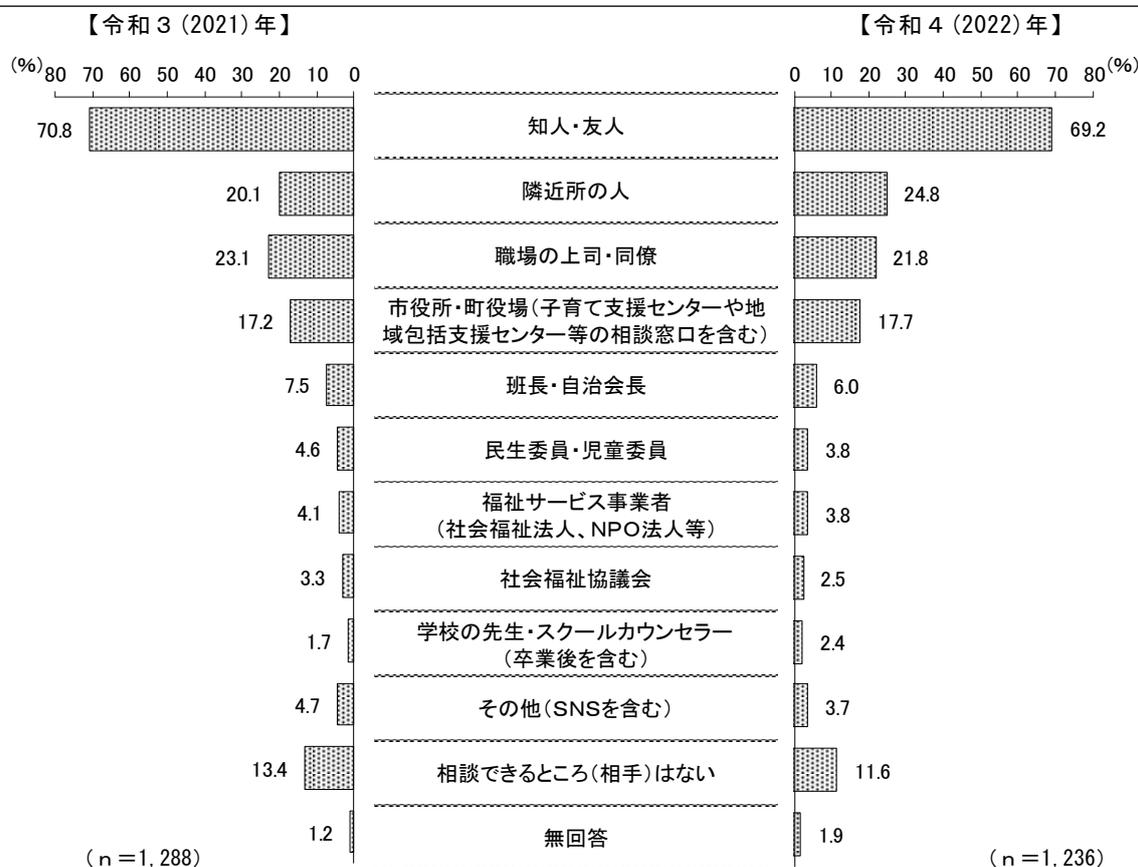
- ・ 全体で見ると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」(30.1%)が約3割、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」(54.3%)が5割台半ば近くとなっている。
- ・ 性別で見ると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性〉(32.7%)が〈男性〉(27.1%)より5.6ポイント高くなっている。
- ・ 性/年齢別で見ると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性70歳以上〉が46.9%と高くなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性50歳代〉が68.8%と高くなっている。「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」では〈女性20歳代〉が34.2%、〈女性30歳代〉が29.3%、〈男性20歳代〉が27.8%と高くなっている。



- ・ 過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 日常生活で困ったときに相談できるところ

問30 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,236]



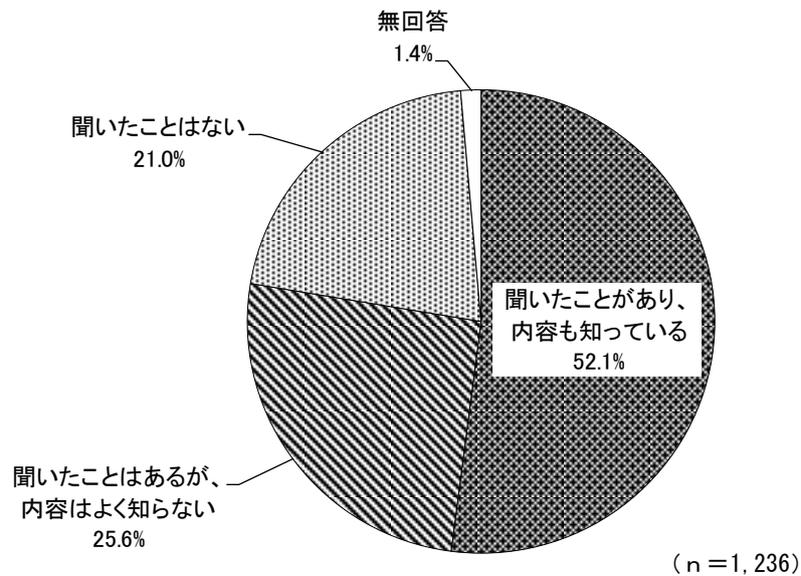
- ・全体で見ると、「知人・友人」(69.2%)が7割弱で最も高くなっている。以下「隣近所の人」(24.8%)、「職場の上司・同僚」(21.8%)、「市役所・町役場(子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む)」(17.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「知人・友人」では〈女性〉(73.3%)が〈男性〉(64.7%)より8.6ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「知人・友人」では〈女性20歳代〉が84.2%、〈女性60～64歳〉が82.1%、〈男性65～69歳〉が79.6%と高くなっている。「隣近所の人」では〈女性70歳以上〉が39.1%、〈女性60～64歳〉が37.5%、〈男性70歳以上〉が36.0%と高くなっている。「職場の上司・同僚」では〈男性30歳代〉が53.3%、〈女性30歳代〉が42.7%、〈男性40歳代〉が39.8%、〈女性40歳代〉が39.4%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

## 11 ヤングケアラーについて

### (1) ヤングケアラーという言葉の認知度

問31 あなたは、「ヤングケアラー」(※)という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]

※ 「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことをいいます。

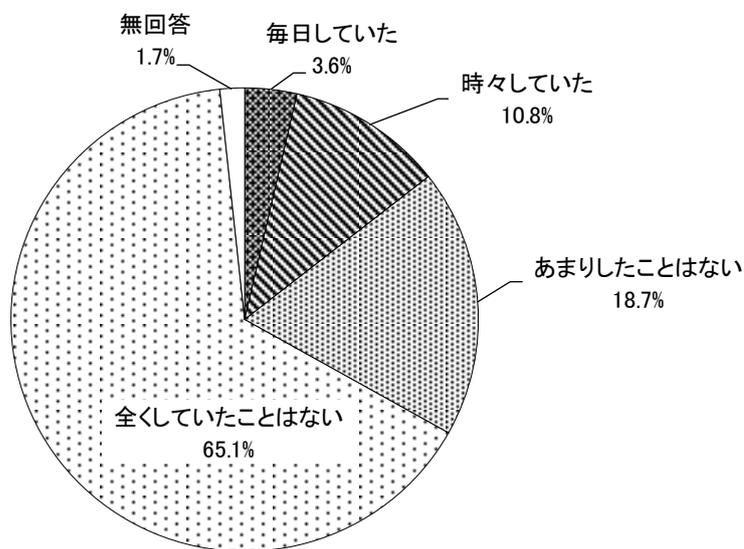


- ・全体で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」(52.1%)が5割強となっている。一方、「聞いたことはない」(21.0%)が2割強となっている。
- ・性別で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」では〈女性〉(59.9%)が〈男性〉(42.1%)より17.8ポイント高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈男性〉(31.3%)が〈女性〉(21.5%)より9.8ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」では〈女性20歳代〉が65.8%、〈女性30歳代〉が65.3%と高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈男性50歳代〉が39.0%、〈男性65～69歳〉が36.7%と高くなっている。「聞いたことはない」では〈男性20歳代〉が41.7%、〈男性30歳代〉が38.3%、〈男性60～64歳〉が33.3%と高くなっている。

## (2) ヤングケアラーの実態（介護や世話）

問32 あなたは、18歳に至るまでの間に、本来大人が担うと想定されているような親の介護やきょうだいの世話などをしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]

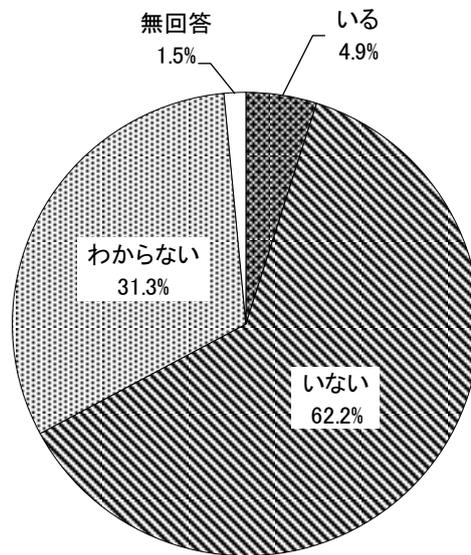


- ・全体で見ると、「毎日していた」(3.6%)と「時々していた」(10.8%)の2つを合わせた『していた』(14.4%)が1割台半ば近くとなっている。一方、「あまりしたことはない」(18.7%)と「全くしていたことはない」(65.1%)の2つを合わせた『していない』(83.8%)が8割台半ば近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、『していた』では〈女性65～69歳〉が21.2%と高くなっている。『していない』では〈男性20歳代〉が94.5%と高くなっている。

### (3) ヤングケアラーの実態（身近にいるか）

問33 あなたの周りに、18歳未満の子どもで、本来大人が担うと想定されているような親の介護やきょうだいの世話などを行っている方はいますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]



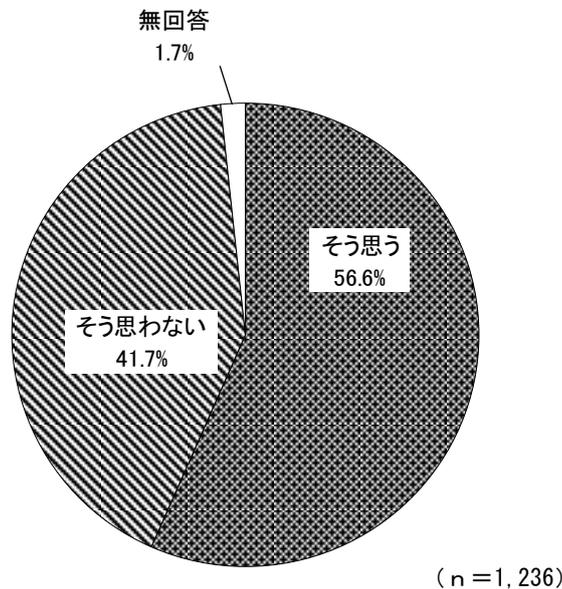
(n=1,236)

- ・全体で見ると、「いない」(62.2%)が6割強となっている。また、「わからない」(31.3%)が3割強となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「いない」では〈男性40歳代〉が75.9%と高くなっている。

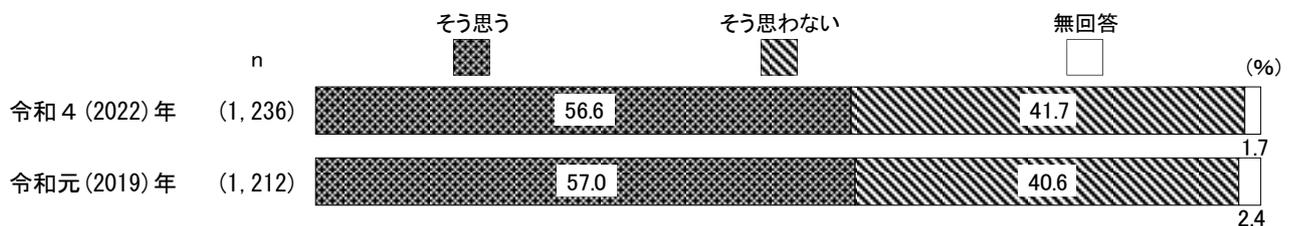
## 12 在宅医療について

### (1) 在宅療養への考え

問34 あなたが病気やけがで長期の療養が必要になり、通院が困難になった場合、自宅で療養したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



- ・全体で見ると、「そう思う」(56.6%)が5割台半ばを超え、「そう思わない」(41.7%)が4割強となっている。
- ・性別で見ると、「そう思う」では〈男性〉(60.2%)が〈女性〉(54.2%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「そう思う」では〈女性20歳代〉が68.4%、〈女性30歳代〉が68.0%と高くなっている。一方、「そう思わない」では〈女性60～64歳〉が57.1%、〈女性65～69歳〉が54.9%と高くなっている。

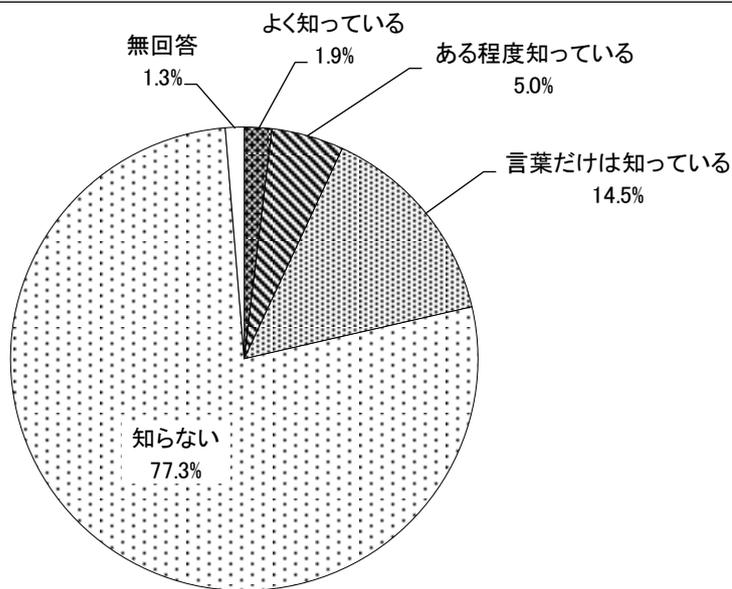


- ・前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 人生会議（ACP）の認知度

問35 あなたは、「人生会議（ACP）」（※）を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]

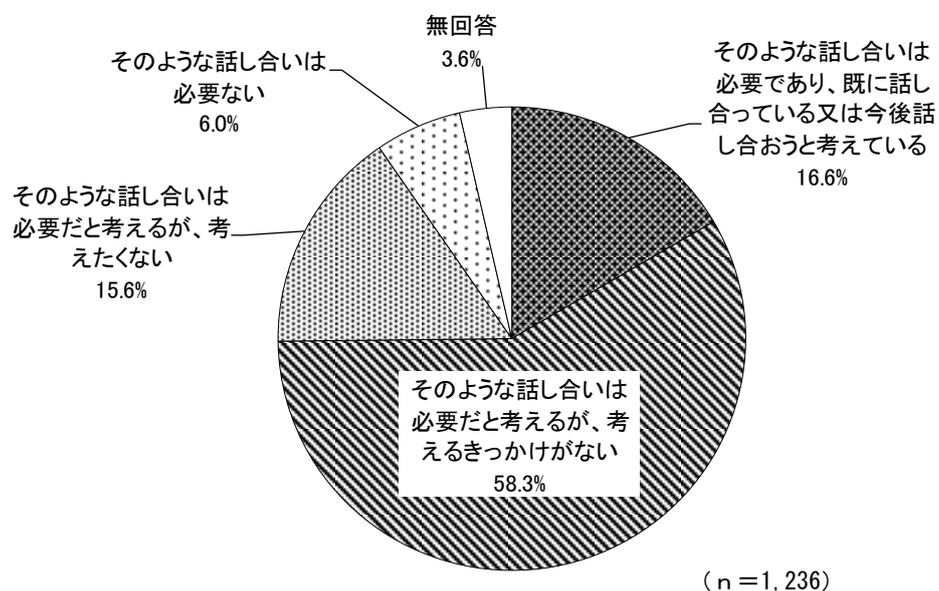
※ 「人生会議（ACP）」とは、アドバンス・ケア・プランニングの愛称で、当事者が望む人生の最終段階の医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組のことをいいます。



- ・全体で見ると、「知らない」（77.3%）が7割台半ばを超え、「言葉だけは知っている」（14.5%）が1割台半ば近くとなっている。
- ・性別で見ると、「知らない」では〈男性〉（81.2%）が〈女性〉（75.1%）より6.1ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「知らない」では〈女性30歳代〉が88.0%と高くなっている。

### (3) 人生会議（ACP）への考え

問36 あなたは、「人生会議（ACP）」について、どのようにお考えですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



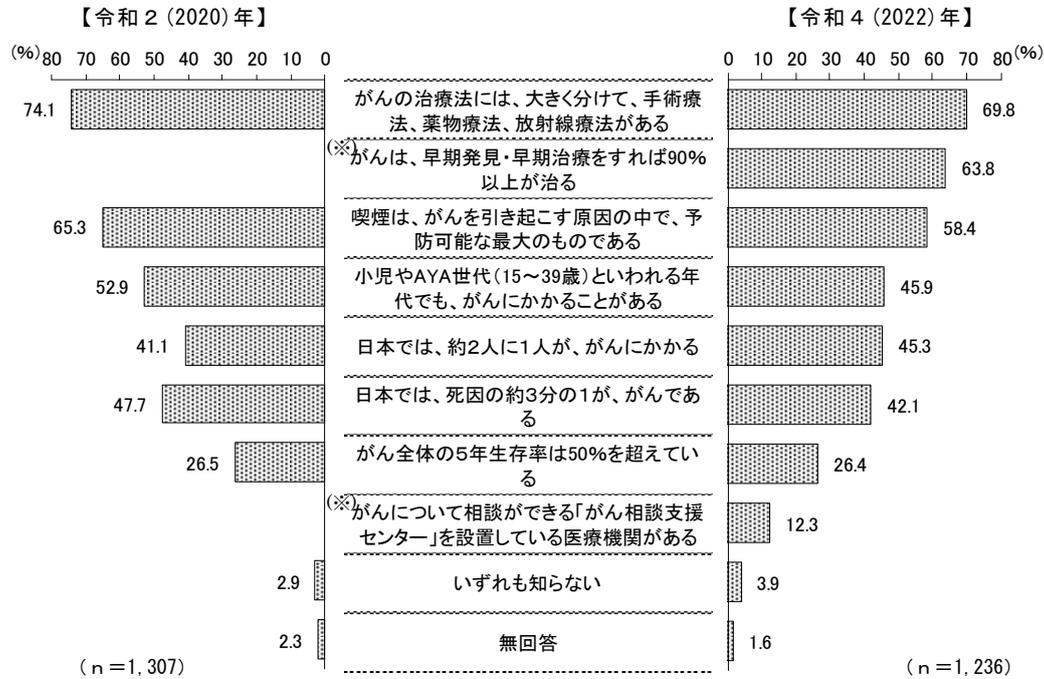
- ・全体で見ると、「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えるきっかけがない」（58.3%）が6割近くで最も高くなっている。以下「そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている」（16.6%）、「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えたくない」（15.6%）の順となっている。
- ・性別で見ると、「そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている」では〈女性〉（19.6%）が〈男性〉（12.3%）より7.3ポイント高くなっている。
- ・性／年齢別で見ると、「そのような話し合いは必要であり、既に話し合っている又は今後話し合おうと考えている」では〈女性20歳代〉が28.9%と高くなっている。「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えるきっかけがない」では〈男性50歳代〉が71.4%、〈女性30歳代〉が69.3%と高くなっている。「そのような話し合いは必要だと考えるが、考えたくない」では〈男性30歳代〉が31.7%と高くなっている。

### 13 とちぎのがん対策について

#### (1) がんについての認知度

問37 がんについてあなたが知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

[ n = 1, 236 ]

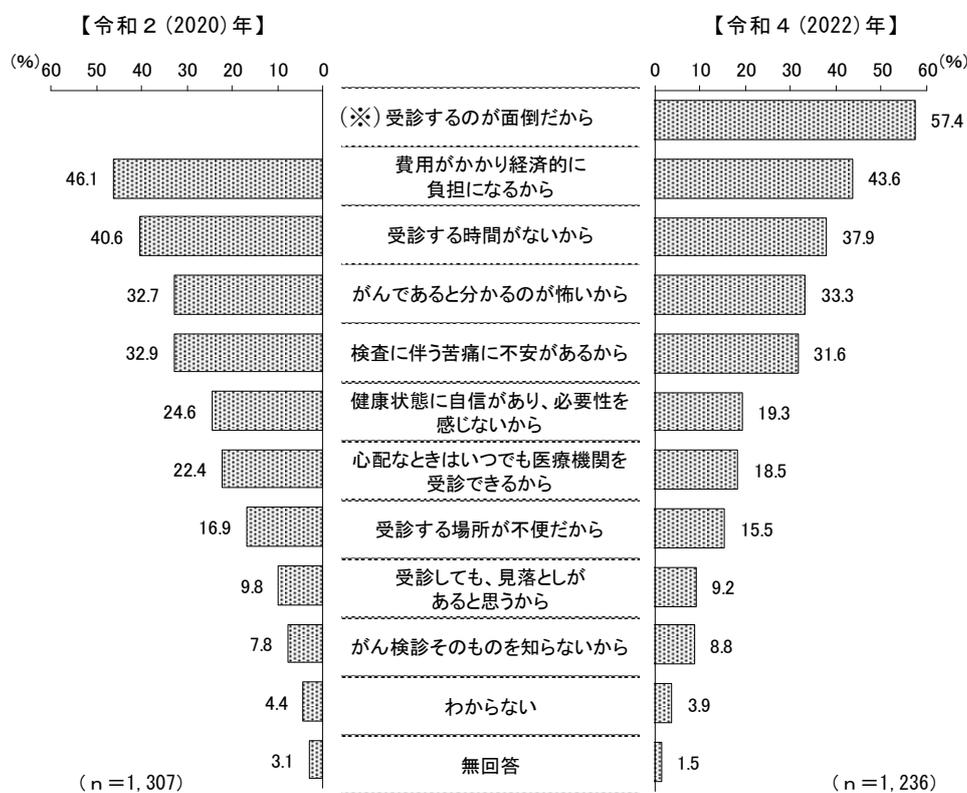


(※) 「がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る」、「がんについて相談ができる「がん相談支援センター」を設置している医療機関がある」は、今回調査で追加した選択肢である。

- ・全体で見ると、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」(69.8%) が7割弱で最も高く、次いで「がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る」(63.8%)、「喫煙は、がんを引き起こす原因の中で、予防可能な最大のものである」(58.4%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「小児やAYA世代(15~39歳)といわれる年代でも、がんにかかることがある」では〈女性〉(52.6%)が〈男性〉(37.2%)より15.4ポイント高くなっている。「日本では、約2人に1人が、がんにかかる」では〈女性〉(49.2%)が〈男性〉(41.0%)より8.2ポイント高くなっている。「日本では、死因の約3分の1が、がんである」では〈男性〉(45.7%)が〈女性〉(39.0%)より6.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「がんの治療法には、大きく分けて、手術療法、薬物療法、放射線療法がある」では〈女性65~69歳〉が83.1%、〈男性70歳以上〉が81.1%と高くなっている。「がんは、早期発見・早期治療をすれば90%以上が治る」では〈男性70歳以上〉が81.7%、〈女性65~69歳〉が77.5%と高くなっている。「小児やAYA世代(15~39歳)といわれる年代でも、がんにかかることがある」では〈女性40歳代〉が59.6%と高くなっている。「日本では、約2人に1人が、がんにかかる」では〈女性70歳以上〉が57.0%と高くなっている。「日本では、死因の約3分の1が、がんである」では〈男性60~64歳〉が58.8%、〈女性20歳代〉が57.9%と高くなっている。「がん全体の5年生存率は50%を超えている」では〈女性50歳代〉が37.2%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) がん検診を受診しない理由

問38 がん検診の受診率は40～50%程度となっていますが、欧米諸国と比較すると依然として低い状況です。あなたは、多くの方ががん検診を受けないのはなぜだと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,236]



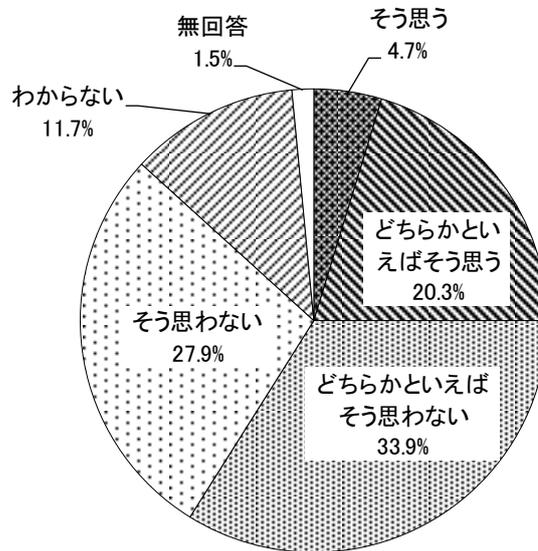
(※)「受診するのが面倒だから」は、今回調査で追加した選択肢である。

- ・全体でみると、「受診するのが面倒だから」(57.4%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「費用がかかり経済的に負担になるから」(43.6%)、「受診する時間がないから」(37.9%)の順となっている。
- ・性別でみると、「検査に伴う苦痛に不安があるから」では〈女性〉(38.7%)が〈男性〉(21.8%)より16.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「受診するのが面倒だから」では〈女性20歳代〉が71.1%、〈女性50歳代〉が69.0%と高くなっている。「費用がかかり経済的に負担になるから」では〈男性40歳代〉が63.9%、〈女性40歳代〉が62.6%、〈男性30歳代〉が60.0%と高くなっている。「受診する時間がないから」では〈女性30歳代〉が68.0%、〈男性40歳代〉が61.4%、〈女性20歳代〉が60.5%、〈女性40歳代〉が58.6%と高くなっている。「がんであると分かるのが怖いから」では〈女性60～64歳〉が50.0%、〈男性65～69歳〉が44.9%と高くなっている。「がん検診そのものを知らないから」では〈男性30歳代〉が30.0%と高くなっている。
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) がん治療と仕事の両立

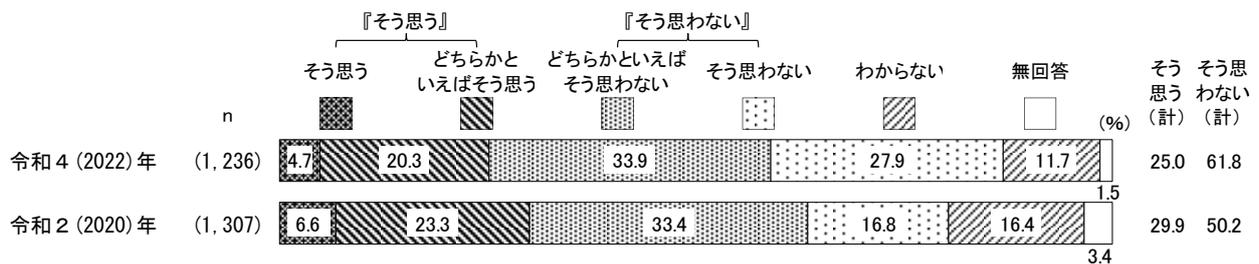
問39 現在の日本の社会では、がんの治療や検査のために2週間に1度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n = 1,236]



(n = 1,236)

- ・全体で見ると、「そう思う」(4.7%)と「どちらかといえばそう思う」(20.3%)の2つを合わせた『そう思う』(25.0%)が2割台半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(33.9%)と「そう思わない」(27.9%)の2つを合わせた『そう思わない』(61.8%)が6割強となっている。
- ・性別で見ると、『そう思う』では〈男性〉(29.2%)が〈女性〉(22.2%)より7.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『そう思う』では〈男性60~64歳〉が39.2%と高くなっている。『そう思わない』では〈女性30歳代〉が72.0%と高くなっている。



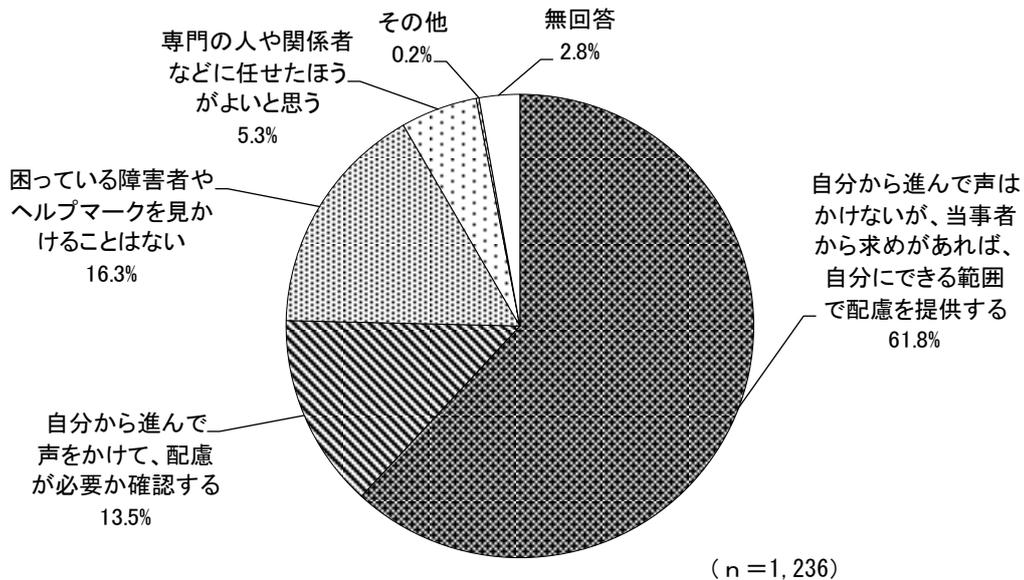
- ・前回(令和2(2020)年)の調査結果と比較すると、『そう思わない』が11.6ポイント増加している。

## 14 障害者差別の解消について

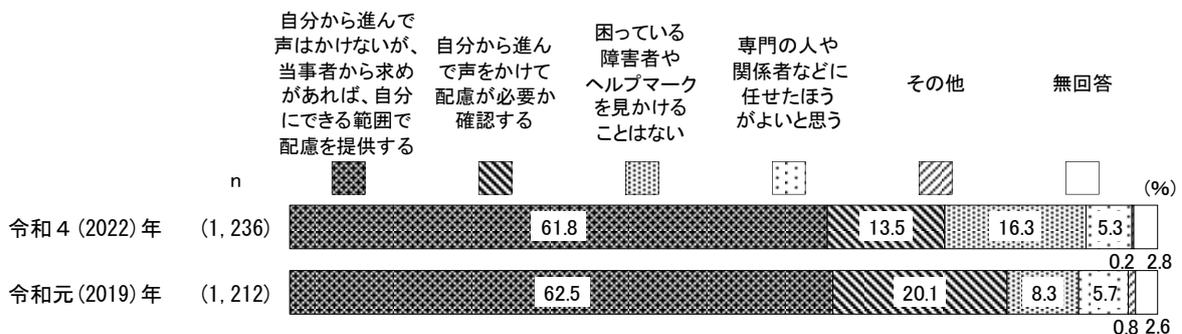
### (1) ヘルプマークの認知度

問40 障害者から困っていることを伝えられたときやヘルプマークの携帯者を見かけたとき、あなたの行動や気持ちとして最も当てはまるものを次の中から1つ選んでください。

[n=1,236]



- ・全体で見ると、「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」(61.8%)が6割強、「困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない」(16.3%)が1割台半ばを超え、「自分から進んで声をかけて、配慮が必要か確認する」(13.5%)が1割台半ば近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「自分から進んで声はかけないが、当事者から求めがあれば、自分にできる範囲で配慮を提供する」では〈女性20歳代〉が81.6%、〈女性30歳代〉が72.0%、〈女性40歳代〉が71.7%と高くなっており、一方、〈男性20歳代〉が50.0%と低くなっている。

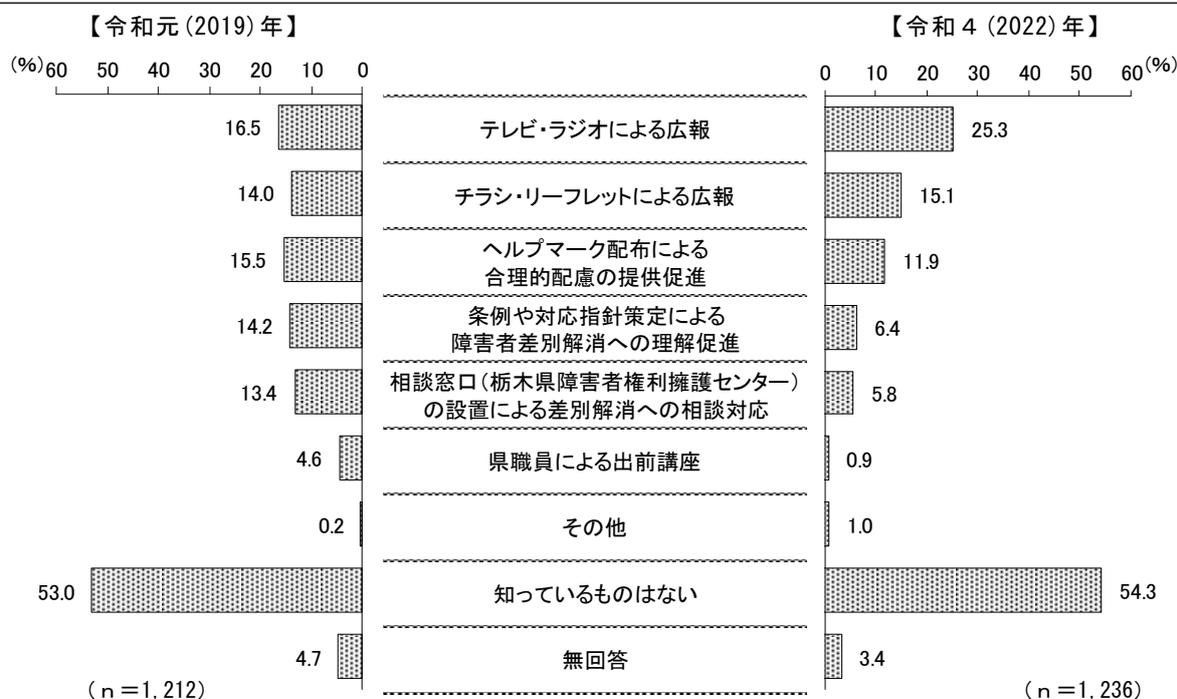


- ・前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、「困っている障害者やヘルプマークを見かけることはない」が8.0ポイント増加している。

## (2) 県の取組に関する認知度

問41 栃木県では、障害を理由とする差別の禁止や理解の促進に向けて「栃木県障害者差別解消推進条例の制定」や「相談窓口の設置」、「ヘルプマークの配布」等の様々な取組を行っています。あなたが、この取組に関し、知っていることを、次の中からいくつでも選んでください。

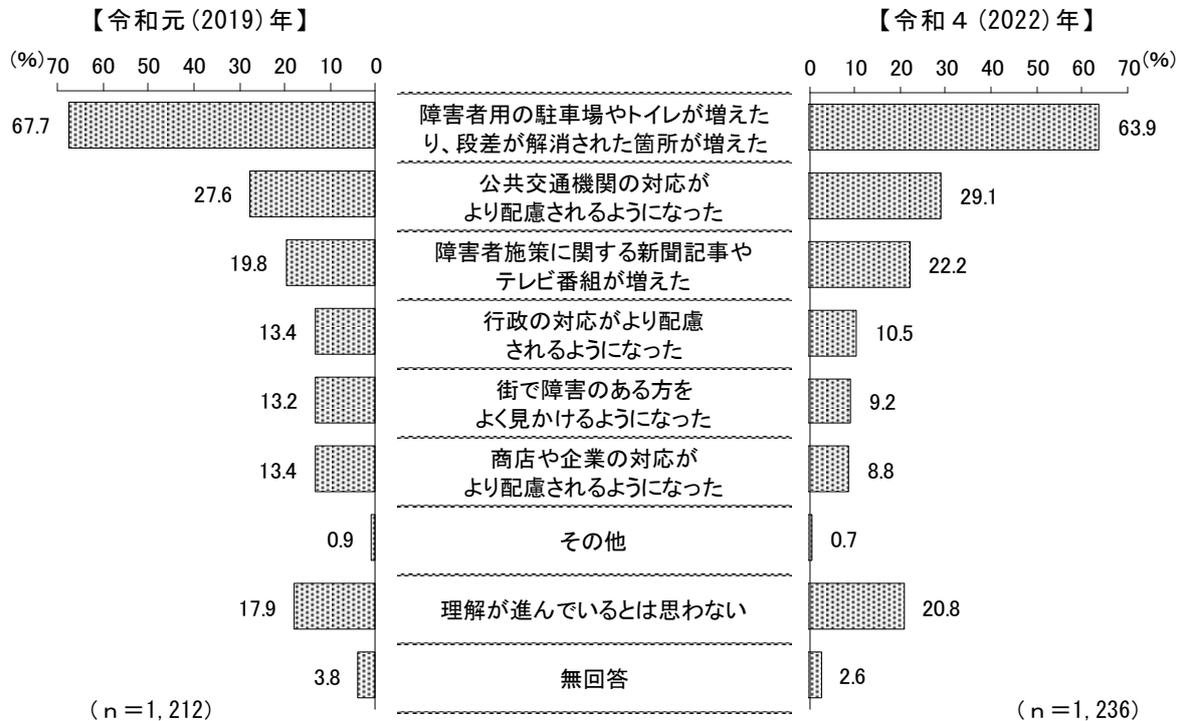
[n=1,236]



- ・全体で見ると、「知っているものはない」(54.3%)が5割台半ば近くで最も高くなっている。一方、「テレビ・ラジオによる広報」(25.3%)が2割台半ば、「チラシ・リーフレットによる広報」(15.1%)が1割台半ば、「ヘルプマーク配布による合理的配慮の提供促進」(11.9%)が1割強となっている。
- ・性別で見ると、「知っているものはない」では〈男性〉(57.5%)が〈女性〉(52.3%)より5.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「知っているものはない」では〈女性40歳代〉が68.7%、〈女性20歳代〉が68.4%、〈男性65～69歳〉が67.3%、〈男性40歳代〉が66.3%、〈男性50歳代〉が64.9%と高くなっている。「テレビ・ラジオによる広報」では〈女性65～69歳〉が39.4%、〈男性70歳以上〉が35.4%と高くなっている。「チラシ・リーフレットによる広報」では〈男性70歳以上〉が25.6%と高くなっている。
- ・前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、「テレビ・ラジオによる広報」が8.8ポイント増加している。

### (3) 障害者差別解消の理解

問42 障害を理由とする差別の解消について、理解が進んでいると感じている点がありますか。  
次の中からいくつでも選んでください。 [n = 1, 236]

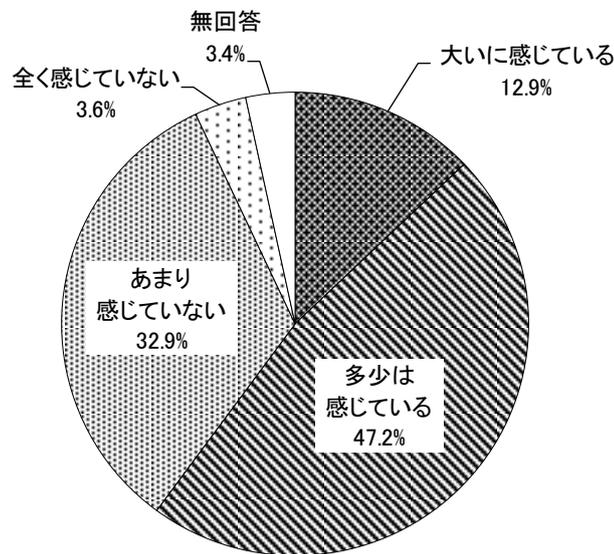


- ・全体で見ると、「障害者用の駐車場やトイレが増えたり、段差が解消された箇所が増えた」(63.9%)が6割台半ば近くで最も高くなっている。以下「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」(29.1%)、「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」(22.2%)、「理解が進んでいるとは思わない」(20.8%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「商店や企業の対応がより配慮されるようになった」では〈男性〉(12.1%)が〈女性〉(6.7%)より5.4ポイント高くなっている。「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性〉(32.6%)が〈女性〉(27.3%)より5.3ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「公共交通機関の対応がより配慮されるようになった」では〈男性70歳以上〉が40.2%と高くなっており、一方〈女性40歳代〉が18.2%と低くなっている。「障害者施策に関する新聞記事やテレビ番組が増えた」では〈女性70歳以上〉が32.9%、〈女性65～69歳〉が32.4%と高くなっており、一方〈男性20歳代〉及び〈女性40歳代〉がそれぞれ11.1%と低くなっている。「行政の対応がより配慮されるようになった」では〈男性70歳以上〉が21.3%と高くなっている。
- ・前回(令和元(2019)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

## 15 食の安全・安心について

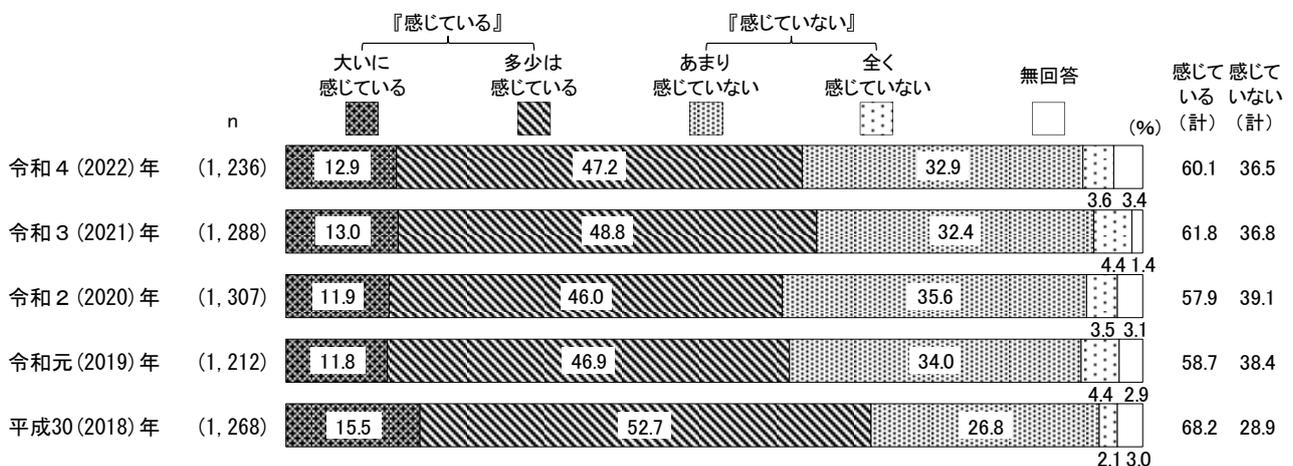
### (1) 食品の安全性に対する不安

問43 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



(n=1,236)

- ・全体で見ると、「大いに感じている」(12.9%)と「多少は感じている」(47.2%)の2つを合わせた『感じている』(60.1%)は約6割と高くなっている。一方、「あまり感じていない」(32.9%)と「全く感じていない」(3.6%)の2つを合わせた『感じていない』(36.5%)は3割台半ばを超えている。
- ・性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(64.9%)が〈男性〉(54.8%)より10.1ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(41.9%)が〈女性〉(32.2%)より9.7ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『感じている』では〈女性50歳代〉が71.7%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性20歳代〉が69.5%、〈女性20歳代〉が52.6%、〈男性30歳代〉が48.3%と高くなっており、一方、〈女性70歳以上〉が23.7%と低くなっている。

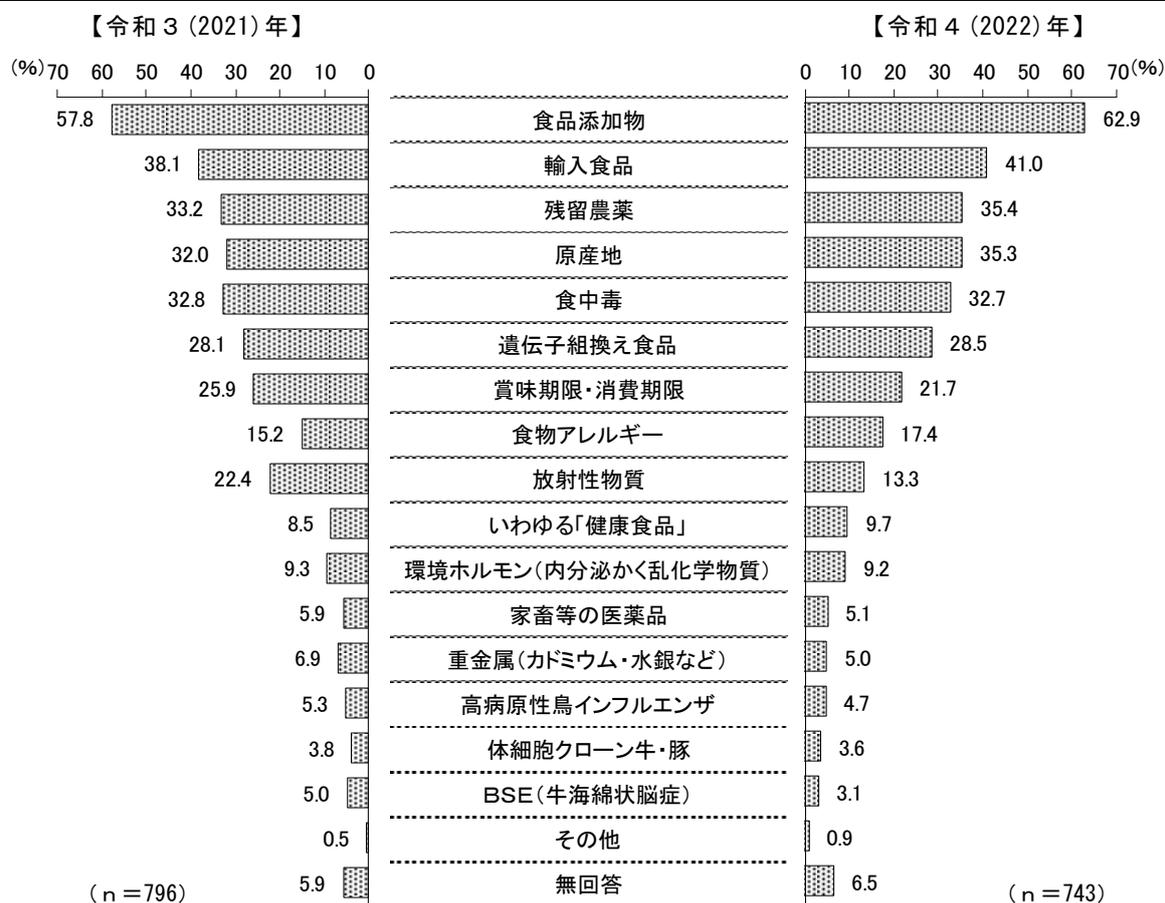


- ・過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 食品の安全性について不安に思うもの

(問43で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

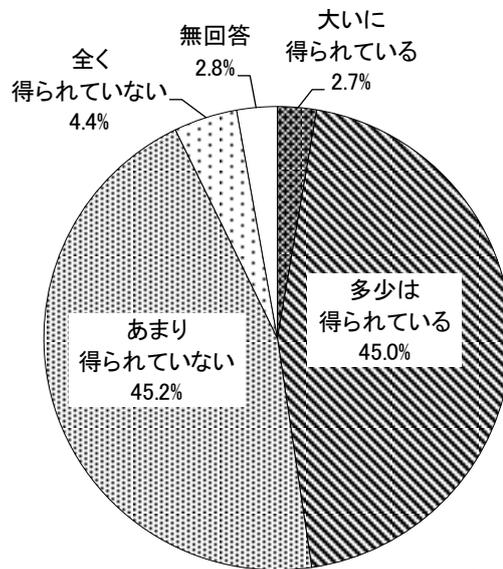
問44 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。 [n=743]



- ・全体で見ると、「食品添加物」(62.9%)が6割強で最も高く、次いで「輸入食品」(41.0%)、「残留農薬」(35.4%)、「原産地」(35.3%)、「食中毒」(32.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「食品添加物」では〈女性〉(66.0%)が〈男性〉(59.2%)より6.8ポイント高くなっている。「食中毒」では〈男性〉(36.3%)が〈女性〉(30.4%)より5.9ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性65~69歳〉が76.6%と高くなっている。「輸入食品」では〈男性65~69歳〉が59.4%、〈女性65~69歳〉が57.4%と高くなっている。「残留農薬」では〈女性60~64歳〉が46.2%と高くなっている。「原産地」では〈男性65~69歳〉が46.9%と高くなっている。「食中毒」では〈男性30歳代〉が53.6%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈女性60~64歳〉が43.6%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈男性70歳以上〉が35.0%と高くなっている。「食物アレルギー」では〈男性40歳代〉が29.5%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「食品添加物」が5.1ポイント増加している。一方、「放射性物質」が9.1ポイント減少している。

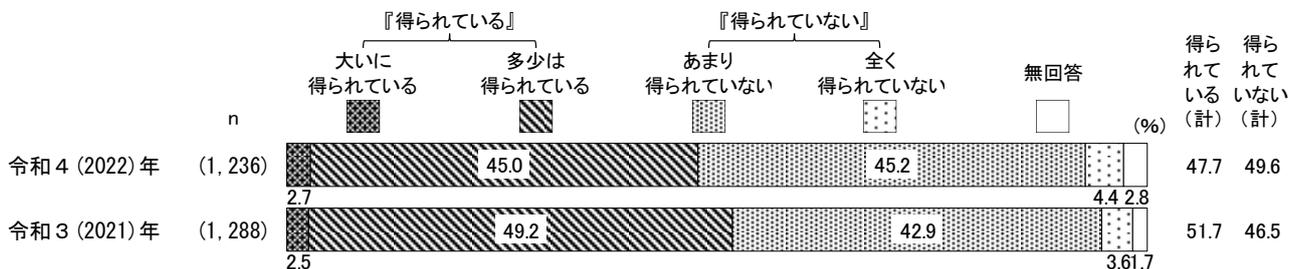
### (3) 食の安全に関する情報を得られているか

問45 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると感じていますか。  
次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



(n=1,236)

- ・全体で見ると、「大いに得られている」(2.7%)と「多少は得られている」(45.0%)の2つを合わせた『得られている』(47.7%)は4割台半ばを超えている。一方、「あまり得られていない」(45.2%)、「全く得られていない」(4.4%)の2つを合わせた『得られていない』(49.6%)は5割弱となっている。
- ・性別で見ると、『得られている』では〈女性〉(50.2%)が〈男性〉(44.8%)より5.4ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『得られている』では〈女性70歳以上〉が63.7%と高くなっている。『得られていない』では〈男性60~64歳〉が72.6%、〈女性30歳代〉が64.0%、〈男性65~69歳〉が61.2%と高くなっている。

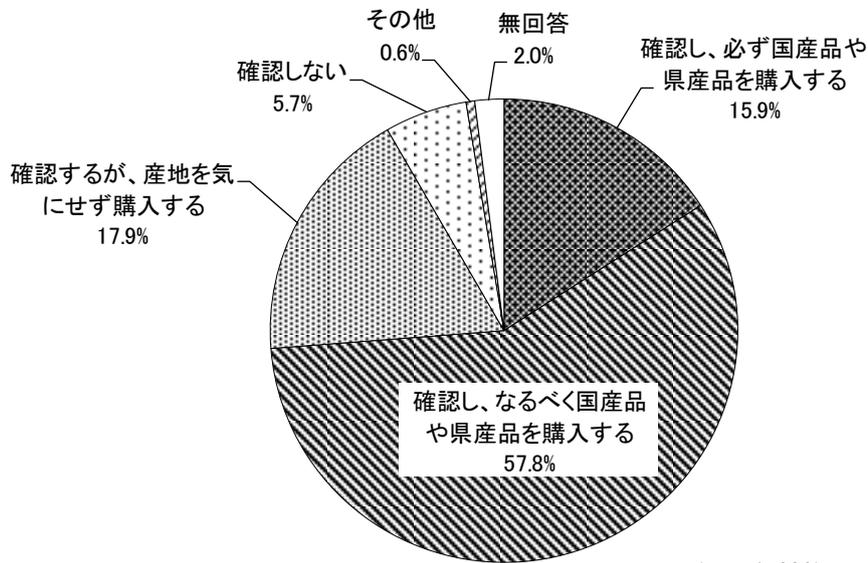


- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

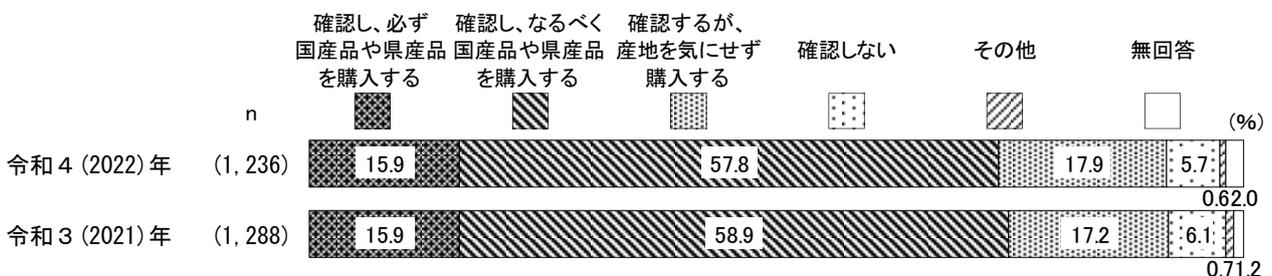
## 16 食に関する意識と実践について

### (1) 生鮮食品購入の際、産地を確認しているか

問46 あなたがお米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を確認し選んで購入しますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



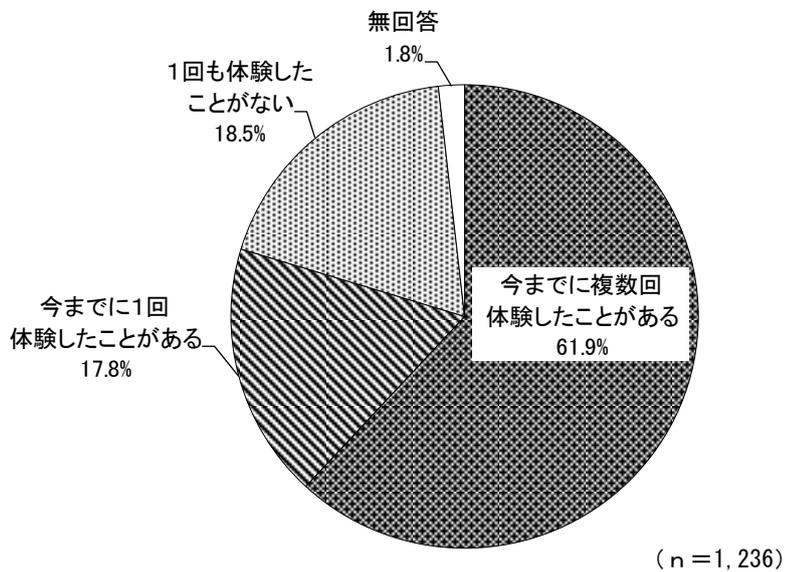
- ・全体でみると、「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」(57.8%)が5割台半ばを超え、「確認するが、産地を気にせず購入する」(17.9%)が1割台半ばを超え、「確認し、必ず国産品や県産品を購入する」(15.9%)が1割台半ばとなっている。
- ・性別でみると、「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」では〈女性〉(62.5%)が〈男性〉(52.2%)より10.3ポイント高くなっている。「確認するが、産地を気にせず購入する」では〈男性〉(22.6%)が〈女性〉(14.4%)より8.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別でみると、「確認し、なるべく国産品や県産品を購入する」では〈女性60~64歳〉が71.4%、〈女性20歳代〉が68.4%と高くなっている。「確認するが、産地を気にせず購入する」では〈男性30歳代〉が33.3%と高くなっている。「確認しない」では〈男性20歳代〉が19.4%と高くなっている。



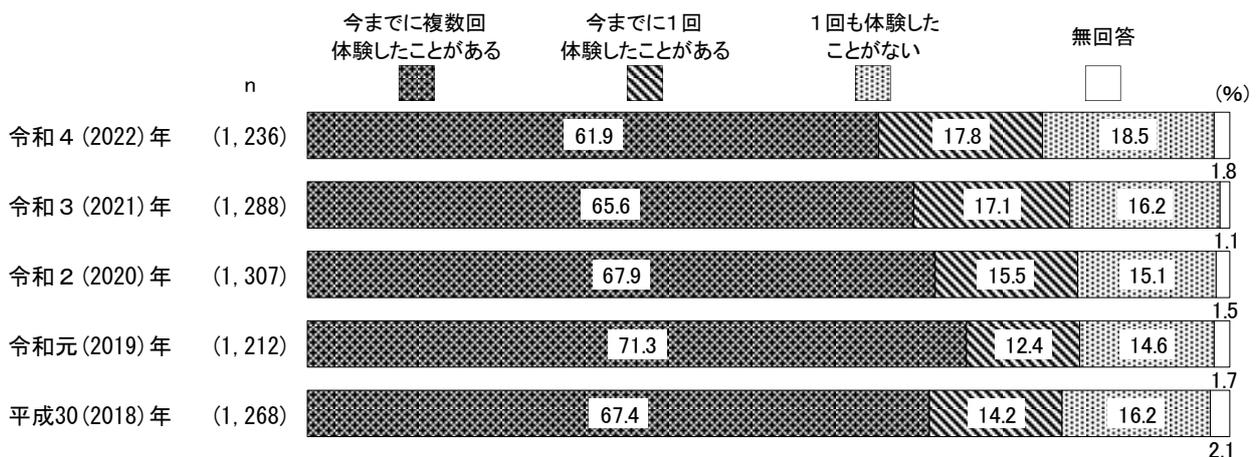
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 農業体験をした経験

問47 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなどの農業体験をしたことがありますか。  
次の中から1つ選んでください。 [n = 1, 236]



- ・全体で見ると、「今までに複数回体験したことがある」(61.9%)が6割強となっており、「今までに1回体験したことがある」(17.8%)が1割台半ばを超え、「1回も体験したことがない」(18.5%)が2割近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性20歳代〉が81.6%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性70歳以上〉が29.3%と高くなっている。



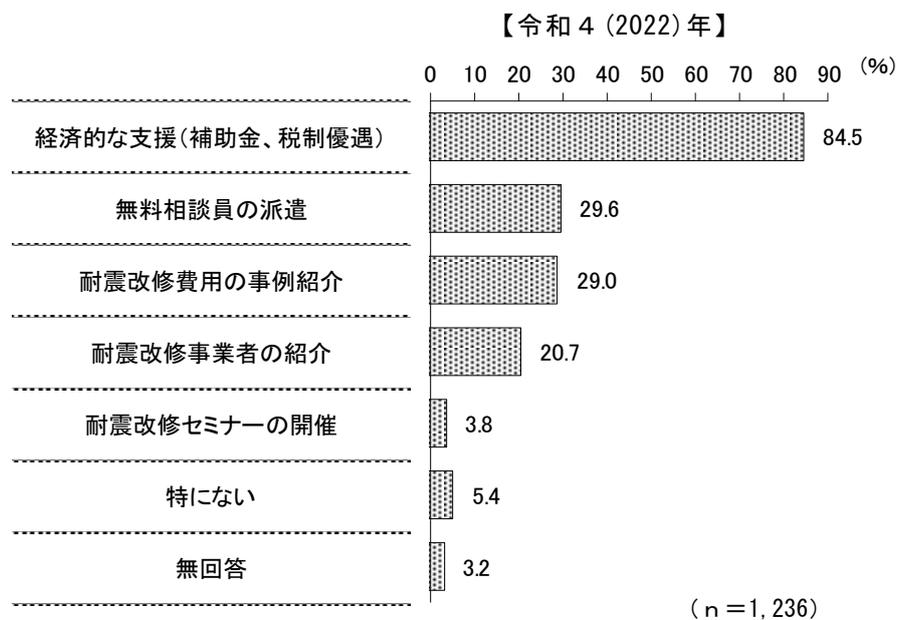
- ・過去の調査結果と比較すると、前回(令和3(2021)年)と大きな傾向の違いはみられない。

## 17 住宅の耐震化及び塀の安全対策等について

### (1) 住宅の耐震改修の必要性

問48 あなた又は家族が所有するお住まいの耐震性に問題があるとわかった場合、耐震改修に踏み切るために行政にしてほしいことは何ですか。次の中から2つ選んでください。

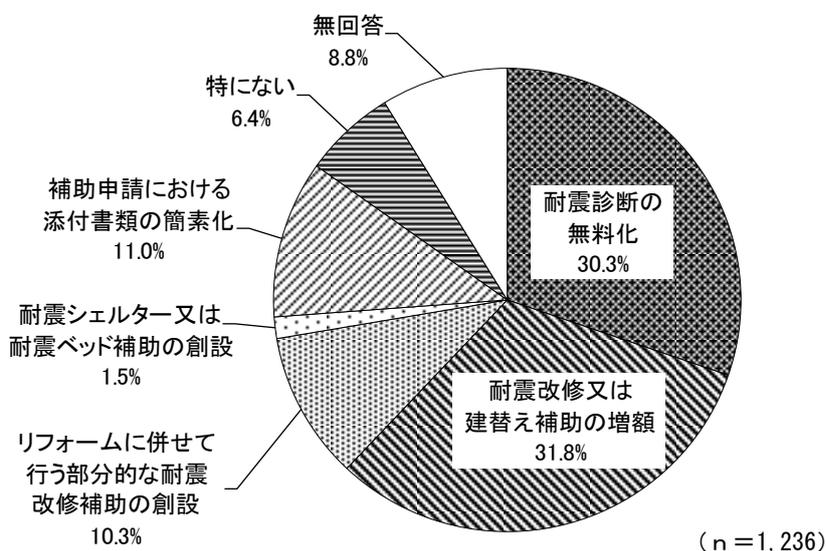
[ n = 1, 236 ]



- ・全体で見ると、「経済的な支援(補助金、税制優遇)」(84.5%)が8割台半ば近くで最も高くなっている。以下「無料相談員の派遣」(29.6%)、「耐震改修費用の事例紹介」(29.0%)、「耐震改修事業者の紹介」(20.7%)の順となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「無料相談員の派遣」では〈女性65～69歳〉が43.7%と高くなっている。「耐震改修事業者の紹介」では〈女性20歳代〉が31.6%と高くなっている。

## (2) 住宅の安全確保

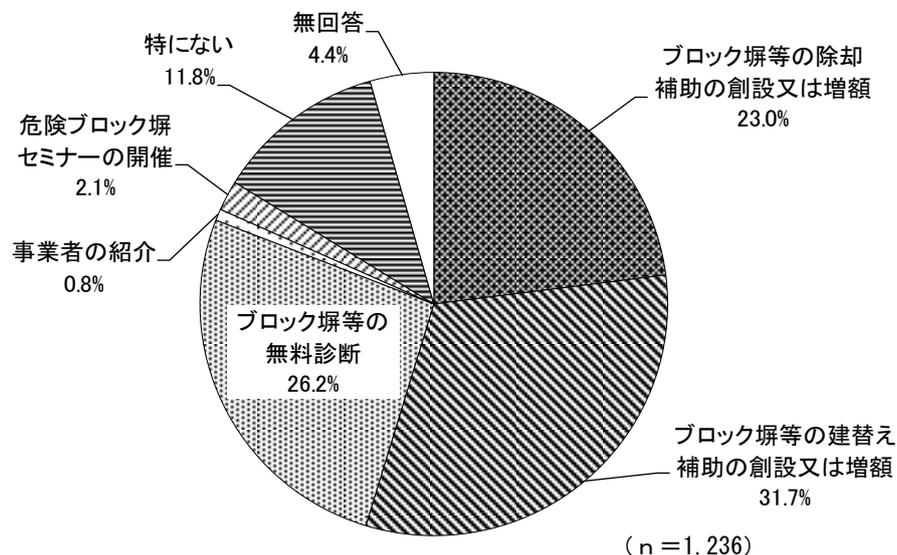
問49 行政は、住まいの耐震性を確保するために補助金などの経済的な支援に取り組んでいますが、更に充実を図るため取り組んでほしい補助制度は何ですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



- ・全体で見ると、「耐震改修又は建替え補助の増額」(31.8%)が3割強、「耐震診断の無料化」(30.3%)が約3割となっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「耐震改修又は建替え補助の増額」では〈女性20歳代〉が44.7%、〈女性40歳代〉が44.4%、〈男性40歳代〉が43.4%、〈女性60～64歳〉が42.9%と高くなっている。「耐震診断の無料化」では〈男性20歳代〉が41.7%と高くなっている。

### (3) ブロック塀の安全確保

問50 あなたが「危険なブロック塀及び石塀」を安全化するために行政に対して力を入れてほしい支援は何ですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,236]



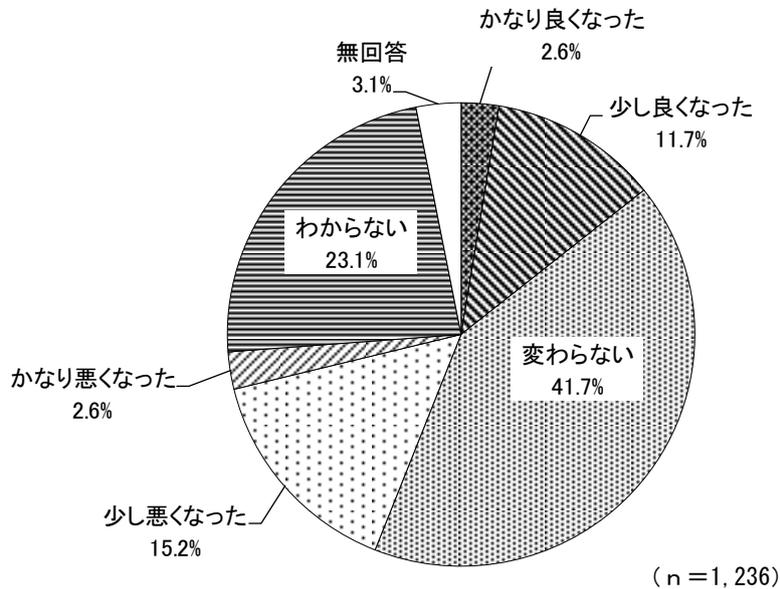
- ・全体で見ると、「ブロック塀等の建替え補助の創設又は増額」(31.7%)が3割強、「ブロック塀等の無料診断」(26.2%)が2割台半ばを超え、「ブロック塀等の除却補助の創設又は増額」(23.0%)が2割台半ば近くとなっている。
- ・性別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。
- ・性/年齢別で見ると、「ブロック塀等の建替え補助の創設又は増額」では〈女性30歳代〉が49.3%と高くなっている。「ブロック塀等の無料診断」では〈女性65～69歳〉が39.4%と高くなっている。「ブロック塀等の除却補助の創設又は増額」では〈男性20歳代〉が36.1%、〈女性40歳代〉が33.3%と高くなっている。

## 18 犯罪と治安対策について

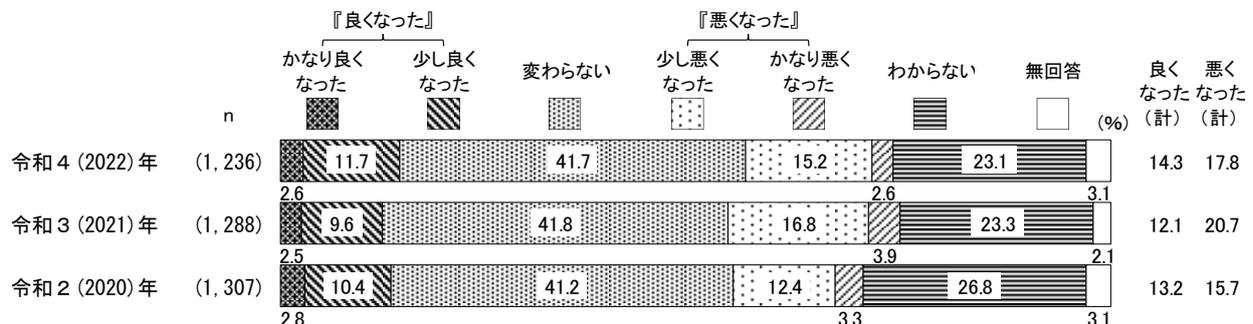
### (1) 県内の治安状況の変化

問51 県内の治安は、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

[ n = 1, 236 ]



- ・全体で見ると、「かなり良くなった」(2.6%)と「少し良くなった」(11.7%)の2つを合わせた『良くなった』(14.3%)は1割台半ば近くとなっている。一方、「少し悪くなった」(15.2%)と「かなり悪くなった」(2.6%)の2つを合わせた『悪くなった』(17.8%)は1割台半ばを超えている。また、「変わらない」(41.7%)は4割強となっている。
- ・性別で見ると、『良くなった』では〈男性〉(16.9%)が〈女性〉(12.7%)より4.2ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性70歳以上〉が22.0%、〈女性70歳以上〉が20.7%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈女性50歳代〉が29.2%と高くなっている。

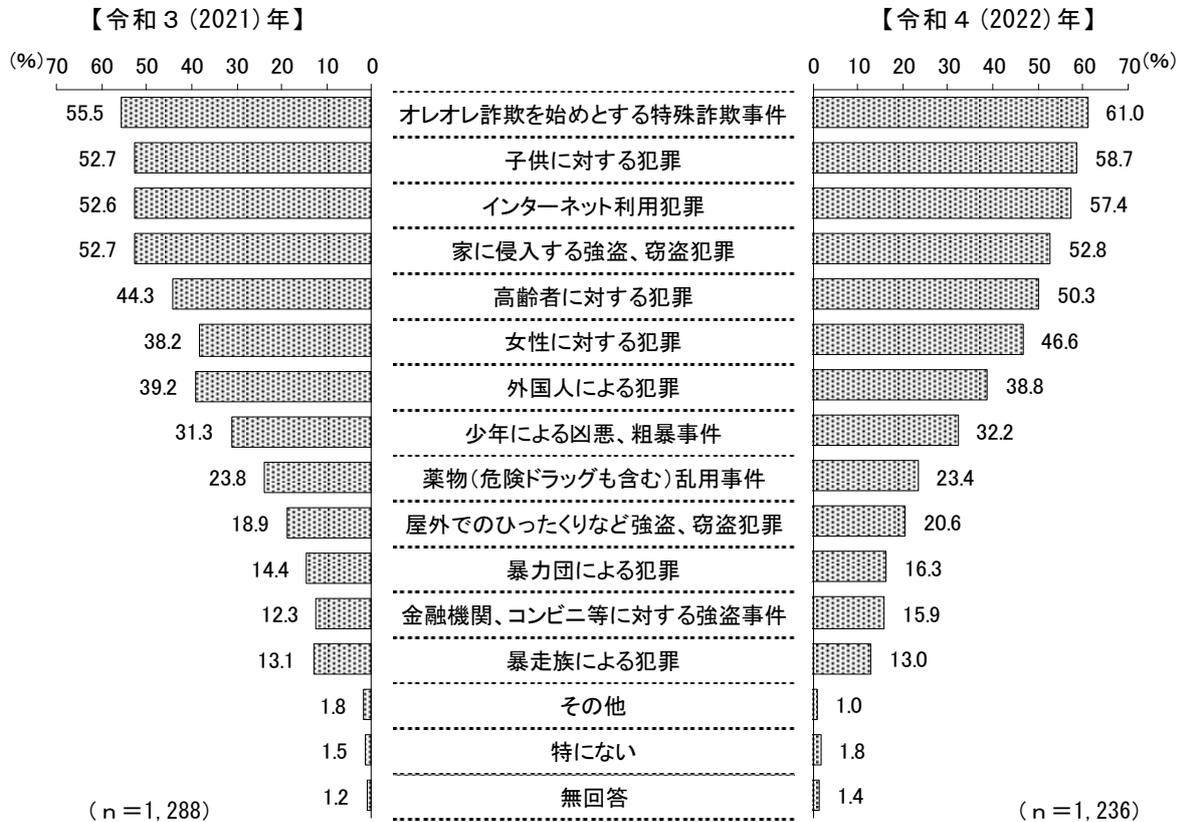


- ・過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が前回(令和3(2021)年)より2.9ポイント減少している。

## (2) 不安を感じる犯罪

問52 あなたは、どのような犯罪に不安を感じますか。次の中からいくつでも選んでください。

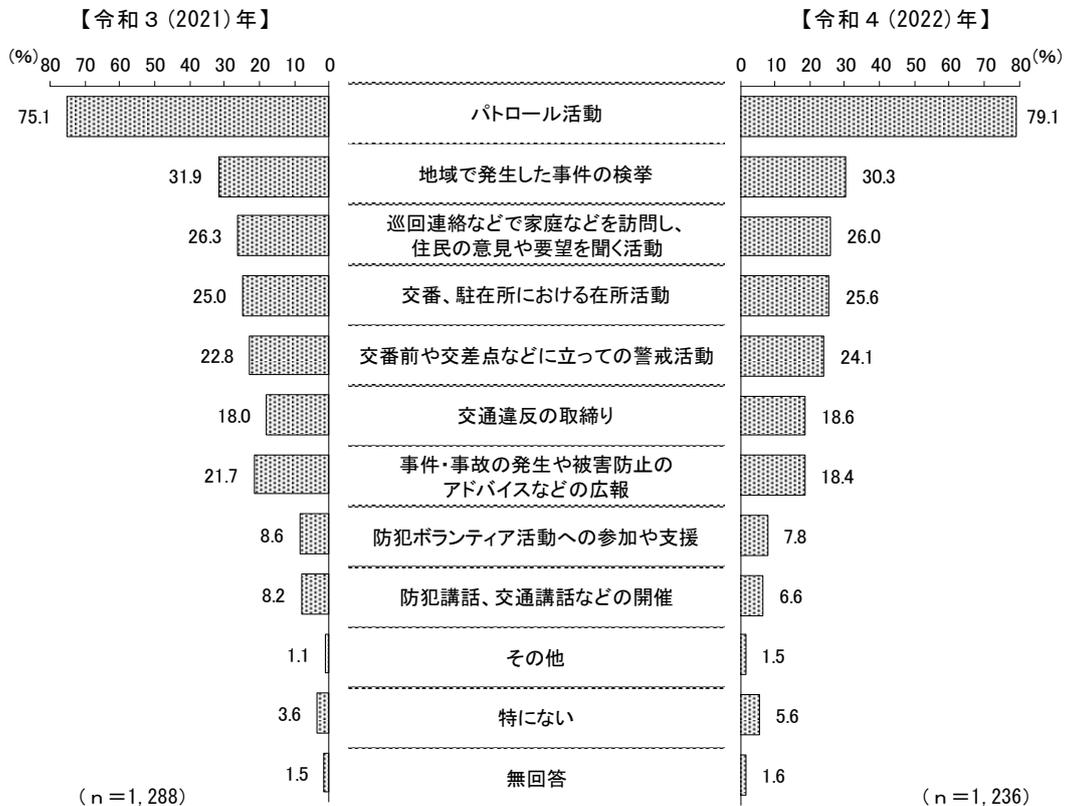
[n=1,236]



- 全体で見ると、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」(61.0%)が6割強で最も高く、次いで「子供に対する犯罪」(58.7%)、「インターネット利用犯罪」(57.4%)、「家に侵入する強盗、窃盗犯罪」(52.8%)、「高齢者に対する犯罪」(50.3%)の順となっている。
- 性別で見ると、「女性に対する犯罪」では〈女性〉(53.3%)が〈男性〉(38.7%)より14.6ポイント高くなっている。また、「子供に対する犯罪」では〈女性〉(65.5%)が〈男性〉(51.0%)より14.5ポイント高くなっている。一方、「外国人による犯罪」では〈男性〉(45.0%)が〈女性〉(34.8%)より10.2ポイント高くなっている。
- 性/年齢別で見ると、「子供に対する犯罪」では〈女性40歳代〉が83.8%、〈女性20歳代〉が81.6%と高くなっている。「インターネット利用犯罪」では〈女性30歳代〉が77.3%、〈女性20歳代〉が73.7%、〈女性50歳代〉が73.5%と高くなっている。「女性に対する犯罪」では、〈女性20歳代〉が81.6%と高くなっている。「外国人による犯罪」では〈男性40歳代〉が56.6%と高くなっている。
- 前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「女性に対する犯罪」が8.4ポイント、「子供に対する犯罪」が6.0ポイント、「高齢者に対する犯罪」が6.0ポイント、「オレオレ詐欺を始めとする特殊詐欺事件」が5.5ポイント、それぞれ増加している。

### (3) 警察官に力を入れてほしい活動

問53 あなたが、交番や駐在所の警察官に特に力を入れてほしい活動は何ですか。次の中からいくつかも選んでください。 [n=1,236]



- ・全体で見ると、「パトロール活動」(79.1%)が8割弱で最も高くなっている。以下「地域で発生した事件の検挙」(30.3%)、「巡回連絡などで家庭などを訪問し、住民の意見や要望を聞く活動」(26.0%)、「交番、駐在所における在所活動」(25.6%)、「交番前や交差点などに立っての警戒活動」(24.1%)の順となっている。
- ・性別で見ると、「交番、駐在所における在所活動」では〈男性〉(29.0%)が〈女性〉(23.0%)より6.0ポイント高くなっている。
- ・性/年齢別で見ると、「地域で発生した事件の検挙」では〈男性40歳代〉が43.4%、〈女性60～64歳〉が42.9%と高くなっている。「交番、駐在所における在所活動」では〈男性60～64歳〉が37.3%、〈男性50歳代〉が36.4%と高くなっている。
- ・前回(令和3(2021)年)の調査結果と比較すると、「パトロール活動」が4.0ポイント増加している。一方、「事件・事故の発生や被害防止のアドバイスなどの広報」が3.3ポイント減少している。





VERY   
GOOD  
LOCAL

---

とちぎ

令和4（2022）年度

栃木県政世論調査

調査報告書（概要版）

令和4（2022）年10月

栃木県県民生活部広報課

宇都宮市塙田1-1-20  
電話（028）623-2158